

1. アンケート調査結果の概要

1-1 調査概要

(1) 調査の目的

平成28年度以降の新たな「松島町長期総合計画」を策定するにあたり、現行の長期総合計画に基づくこれまでの取り組みを評価、検証するとともに、社会経済情勢の変化や急速な少子高齢化の進行、東日本大震災の発生など、本町を取り巻く状況の変化に適切に対応していく必要がある。

このため、現在の町民の意向を的確に把握し、新たな総合計画の諸施策にその意向を反映させ、町民と町が一体となって計画を策定、推進していくことを目的として、松島町の全世帯を対象としたアンケート調査を実施することとした。

(2) 調査の概要

1) 実施期間

発送：平成26年10月1日（水） ～ 投函期限：10月31日（金）

2) 調査対象者

松島町内の全世帯：5,297世帯

3) 調査票の配布・回収方法

配布：広報と合わせ各戸配布

回収：郵送回収または役場内設置ポストへ投函

4) 回収票数

	発送票数	回収票数	回収率
全体	5,297世帯	1,276世帯	24.1%
松島	809世帯	146世帯	18.0%
高城	1,327世帯	274世帯	20.6%
本郷	748世帯	118世帯	15.8%
磯崎	1,169世帯	295世帯	25.2%
手樽	218世帯	56世帯	25.7%
北小泉	70世帯	9世帯	12.9%
下竹谷	87世帯	11世帯	12.6%
上竹谷	104世帯	20世帯	19.2%
幡谷	384世帯	89世帯	23.2%
根廻	70世帯	18世帯	25.7%
初原	243世帯	55世帯	22.6%
桜渡戸	68世帯	10世帯	14.7%
無回答・他	—	175世帯	—

※参考 H25松島町復興土地利用計画の策定に関わる全世帯アンケート回収率：23.0%
H21松島町長期総合計画第三次基本計画策定に係るアンケート回収率：23.8%
H17松島町長期総合計画第二次基本計画策定に係るアンケート回収率：22.1%
H10松島町長期総合計画第一次基本計画策定に係るアンケート回収率：24.1%

1-2 住民アンケート調査結果の概要

(1) 調査結果の総括

松島町の全世帯を対象としたアンケート調査結果の総括を以下に整理する。

1) 回答者の属性

- ・今回の回答者は、「**長い間、松島に一戸建ての持ち家で住んでいる高齢者の方**」が多かった。

2) 松島町への愛着度

- ・松島町への愛着度については、「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」の合計値が約7割で、「**愛着を感じている人**」が多かった。
- ・愛着度のクロス集計結果からは、「**高齢者**」、「**第一次産業従事者**」、「**居住年数の長い人**」、「**北部地域の人**」、「**一戸建てに住んでいる人**」、「**親と同居している人**」ほど、愛着が高い傾向が見られた。

3) 定住意向

(a) 住みやすさの評価

- ・住みやすさの評価については、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計値が約5割で、「**住みやすいと感じている人**」が多かった。
- ・住みやすさのクロス集計結果からは、「**高齢者**」、「**第一次産業従事者**」、「**町内に通勤・通学している人**」、「**居住年数の長い人**」、「**北部地域の人**」、「**一戸建てに住んでいる人**」、「**親と同居している人**」ほど、住みやすいと感じている人が多い傾向が見られた。

(b) 15年前との住みやすさの比較評価

- ・15年前との住みやすさの比較については、「**どちらともいえない**」とした人が約4割で最も多く、「住みやすくなった」と感じている人と「住みにくくなった」と感じている人は同程度となった。
- ・15年前との住みやすさの比較のクロス集計結果からは、「**高齢者**」、「**自営業、専業主婦(夫)、公務員**」、「**北部地域の人**」、「**民間の借家(一戸建て)**」、「**親と同居している人**」ほど、住みやすくなったと感じている人が多い傾向が見られた。

(c) 今後の居住意向の評価

- ・今後の居住意向は、「**住み続けたい**」、「**どちらかといえば住み続けたい**」の合計値が約7割で、「**住み続けたいと感じている人**」が多かった。
- ・今後の居住意向のクロス集計結果からは、(a)住みやすさの評価と同様の傾向であり、「**高齢者**」、「**第一次産業従事者**」、「**町内に通勤・通学している人**」、「**居住年数の長い人**」、「**北部地域の人**」、「**一戸建てに住んでいる人**」、「**親と同居している人**」、「**民間の借家(一戸建て)**」、「**親と同居している人**」ほど、住み続けたいと感じている人が多い傾向が見られた。

4) 望ましい10年後の将来像

- ・松島町の望ましい将来像については、以下の意見が多い結果となった。

⇒「健康・福祉のまち」

⇒「安心・安全なまち」

⇒「子育て・教育のまち」

- ・将来像のクロス集計結果からは、**子育ての現役世代は「子育て・教育のまち」、農林業・漁業(漁師・養殖業)の就業者は「農林漁業のまち」とする意見も多い傾向が見られた。**

5) 町の取り組みに関する満足度と重要度の評価

- ・現行計画における各分野別の取り組み(52項目)に関する「現状の満足度」・「今後の重要度」の評価結果から、「満足度」が低く「重要度」が高いと評価された「優先性」の高い取り組みとして、以下の取り組みが選定された。

⇒「医療機関の充実や緊急医療体制の強化」

⇒「風水害への対策(津波や河川氾濫など)」

⇒「身近な生活環境の整備や管理(町道等)」

⇒「松島町の玄関口としての「松島駅・松島海岸駅」の整備」

⇒「住みよい住居環境とするための有効な土地利用(空き地の活用など)」

6) 町の取り組み(52項目)で特に重要と思う取り組み(5つまで選択)

- ・町の取り組み(52項目)のうち、特に重要と思う取り組みとしては、以下の意見が多い結果となった。

⇒「医療機関の充実や緊急医療体制の強化」

⇒「風水害への対策(津波や河川氾濫など)」

⇒「松島町の玄関口としての「松島駅・松島海岸駅」の整備」

⇒「安心して子育てできる環境整備(保育サービスの充実など)」

⇒「住民と行政が一体となってまちづくりを考える活動」

7) 自由意見について

分野別では、「行財政」「道路」「保健・医療」「商工業」「公共交通」についての意見が多い状況となっている。

(2) 回答者の属性【問1】

回答者の多かった属性の傾向を以下に整理する。

【問1-1】 性別について

→ 「**男性**」が55%、「**女性**」が37%

【問1-2】 年齢について

→ 「**60～69歳**」、「**70歳以上**」の割合が共に32%で、合わせて全体の64%

【問1-3-1】 現在の職業について

→ 「**無職**」が26%、次いで「**会社員・会社役員**」が19%、「**専業主婦(夫)**」が11%

【問1-3-2】 15年前の職業について

→ 「**会社員・会社役員**」が34%、次いで「**公務員**」が10%、「**自営業**」が7%

【問1-4】 現在の職業の業種について

→ 「**該当なし**」が28%、次いで「**その他サービス業**」が10%、「**その他**」が7%

【問1-5-1】 現在の通勤・通学先について

→ 「**通勤・通学していない**」が26%、次いで「**町外**」が25%、「**町内**」が21%

【問1-5-2】 15年前の通勤・通学先について

→ 「**町外**」が45%、次いで「**町内**」が18%、「**通勤・通学していない**」が10%

【問1-6】 居住年数について

→ 「**30年以上**」が63%、次いで「**20年以上30年未満**」が11%、「**10年以上20年未満**」が11%

【問1-7-1】 居住地区について

→ 「**磯崎**」が23%と高く、次いで「**高城**」が22%、「**松島**」が12%

【問1-7-2】 15年前の居住地域について

→ 「**高城**」が18%と高く、次いで「**磯崎**」が16%、「**県内の他市町村**」が12%

【問1-8】 住居の種類について

→ 「**持ち家(一戸建て)**」が88%、次いで「**民間の借家(集合住宅)**」が5%、「**民間の借家(一戸建て)**」が3%

【問1-9】 家族構成について

→ 「**自分(たち夫婦)と子**」が30%と高く、次いで「**夫婦のみ**」が26%、「**三世代(親・子・孫など)**」が17%

【問1-10】 同居家族(子ども、高齢者)の有無について(複数回答)

→ 「**該当なし**」が523人と多く、次いで「**65歳以上の方**」が466人、「**小学生**」が125人

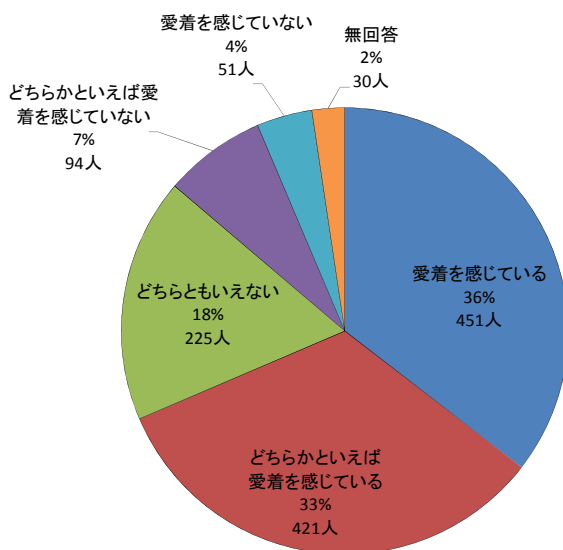
【問1-11】 ネット利用状況について

→ 「**よく利用している**」が43%、次いで「**利用していない**」が26%、「**時々利用している**」が22%

(3) 松島町への愛着度【問2】

◆単純集計

「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」の合計値が69%と高く、**愛着を感じている人が多い傾向**にある。

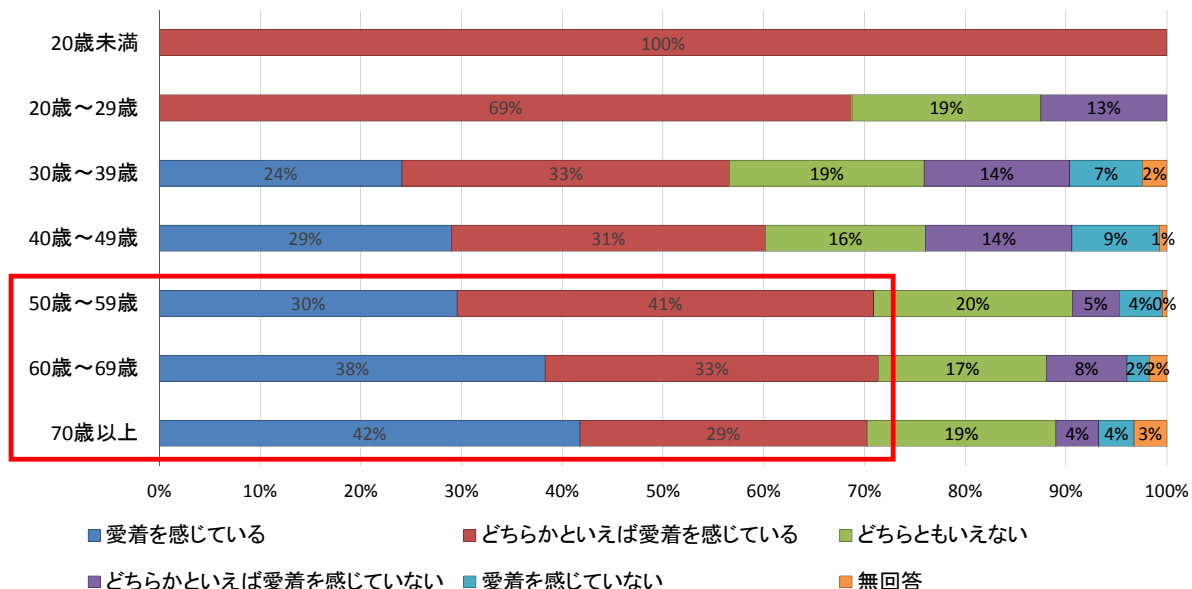


◆クロス集計【年齢×愛着度】

年齢別に見ると、全ての年代で「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」が多くなっているが、特に、高齢者ほど愛着度が高い傾向にある。

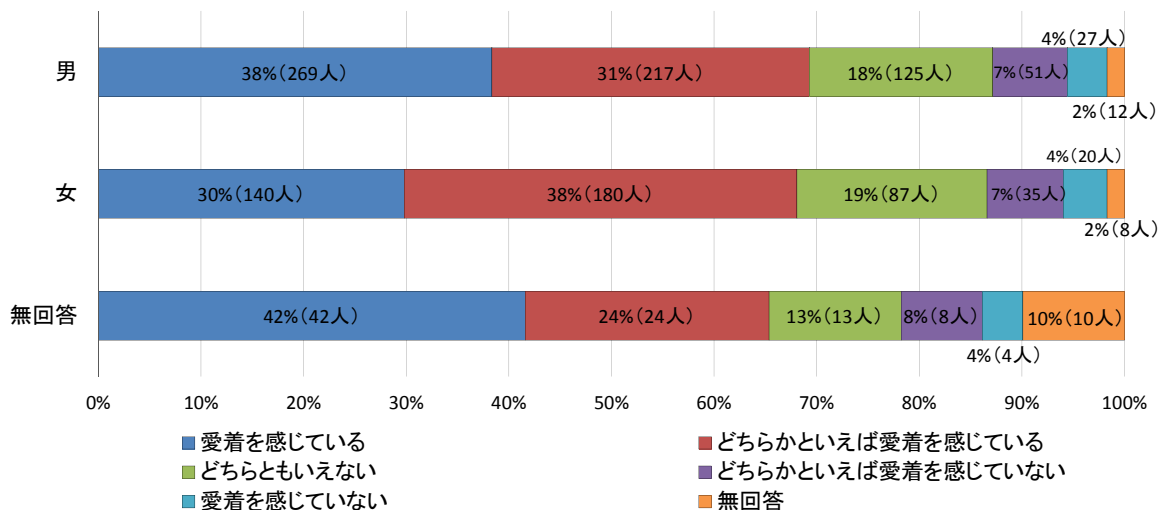
(単位:人)

	愛着を感じている	どちらかといえば愛着を感じている	どちらともいえない	どちらかといえば愛着を感じていない	愛着を感じていない	無回答	計
20歳未満	0	1	0	0	0	0	1
20歳～29歳	0	11	3	2	0	0	16
30歳～39歳	20	27	16	12	6	2	83
40歳～49歳	40	43	22	20	12	1	138
50歳～59歳	63	88	42	10	9	1	213
60歳～69歳	154	133	67	32	9	7	402
70歳以上	167	114	75	17	14	13	400
無回答	7	4	0	1	1	6	19
計	451	421	225	94	51	30	1272



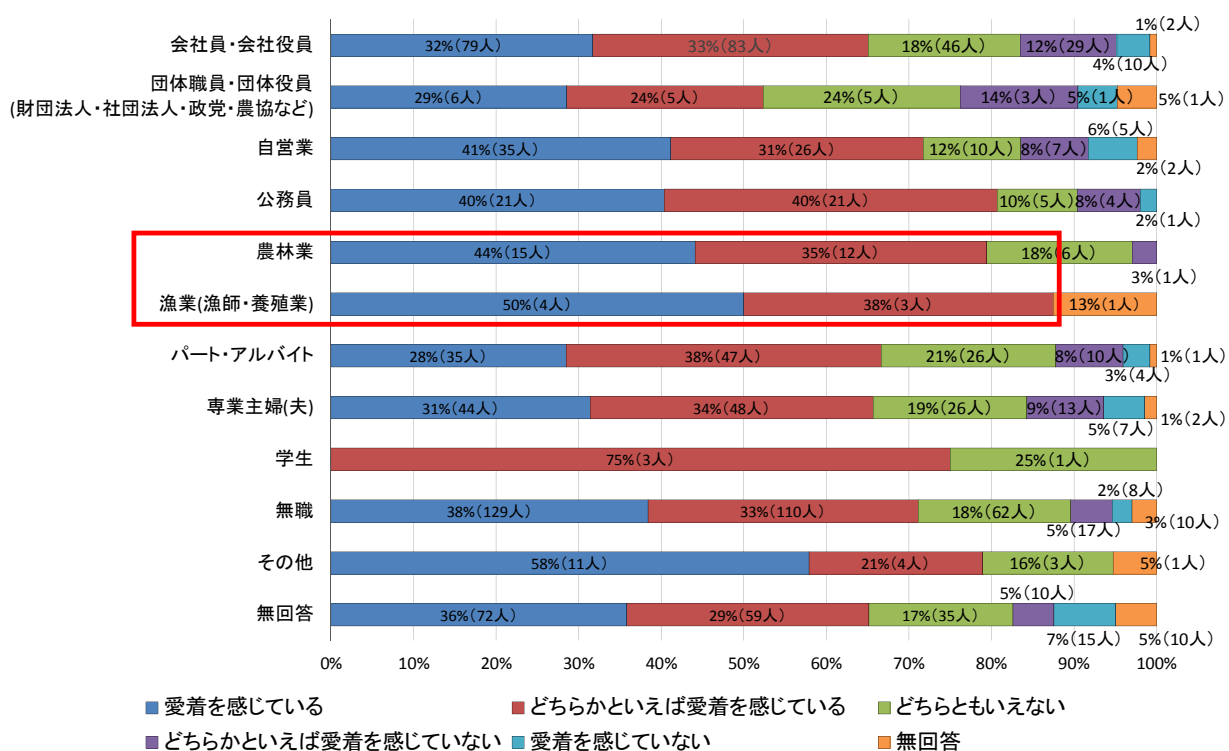
◆クロス集計【性別×愛着度】

性別で見ると、「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」の合計値が男性(69%)、女性(68%)とも多くなっており、性別では有意な差は見られなかった。



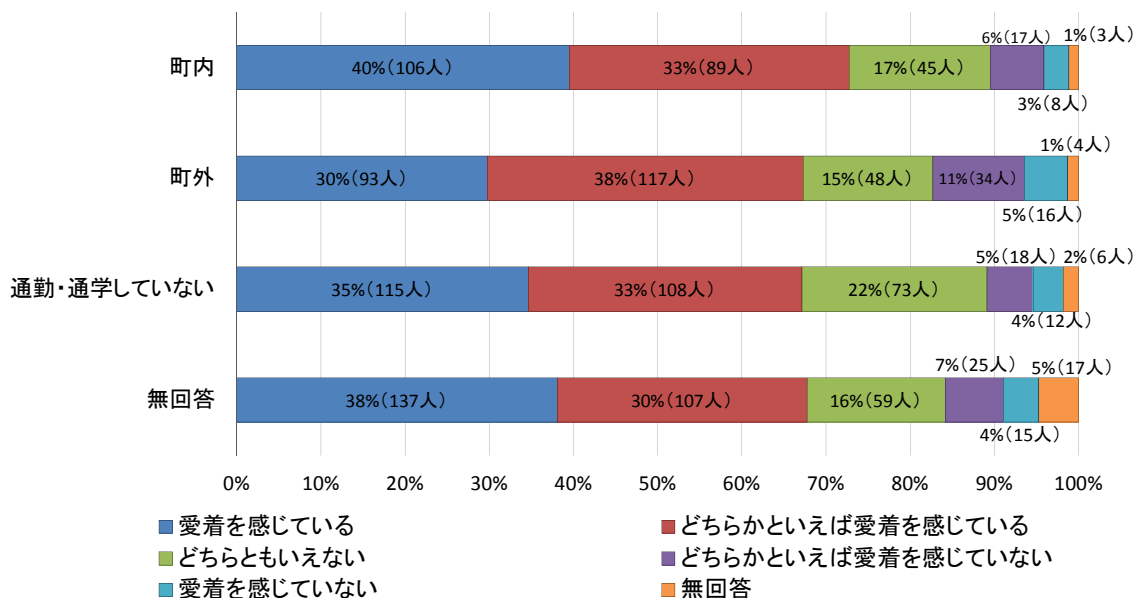
◆クロス集計【職業×愛着度】

現在の職業別に見ると、全ての職業で「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」の合計値が多くなっているが、特に、漁業(漁師・養殖業) (88%)、公務員(80%)、農林業(79%)などが高く、**第一次産業従事者で愛着度が高い傾向にある。**



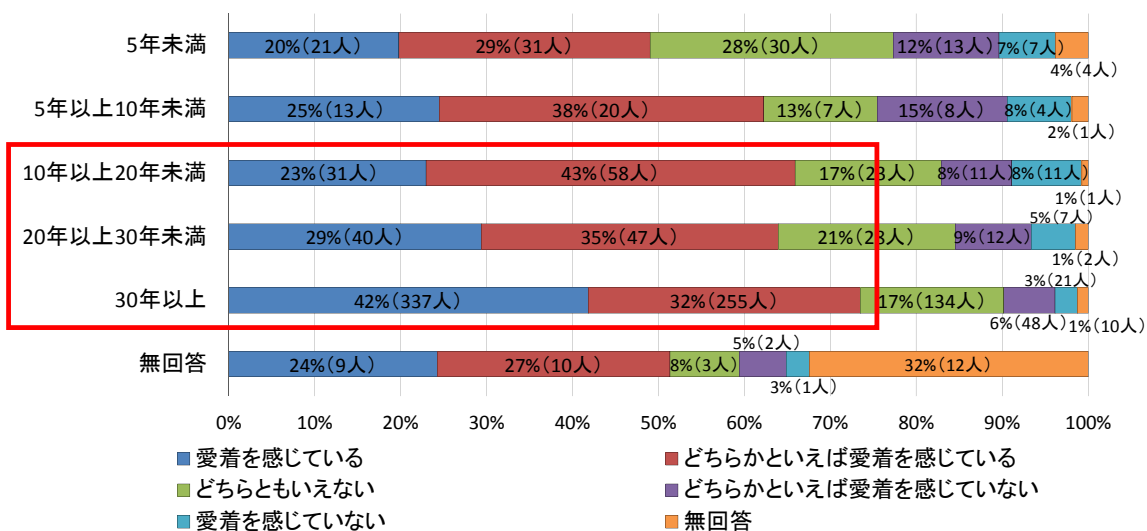
◆クロス集計【通勤・通学先×愛着度】

通勤・通学先で見ると、「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」の合計値が町内(73%)、町外(68%)、通勤・通学していない(68%)とも多くなっており、通勤・通学先では有意な差は見られなかった。



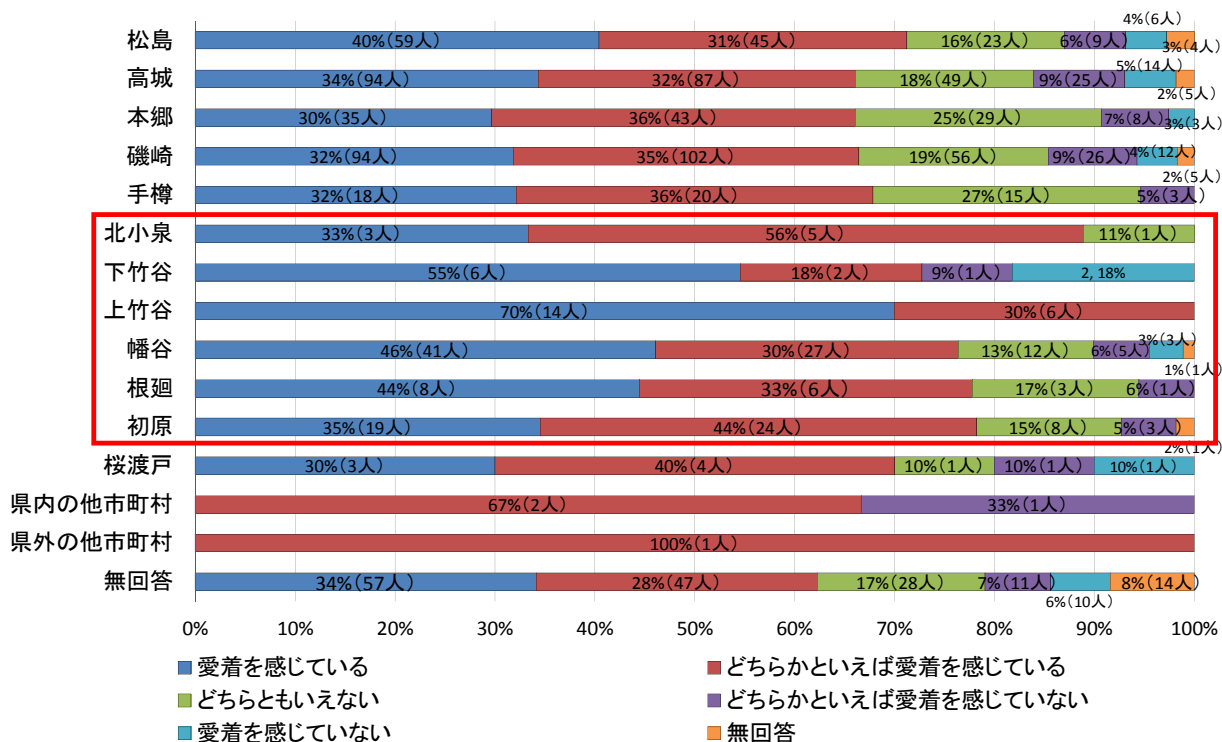
◆クロス集計【居住年数×愛着度】

居住年数別に見ると、全ての年数で「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」の合計値が多くなっているが、特に、30年以上(74%)、10年以上20年未満(66%)、20年以上30年未満(64%)など、居住年数の長い人ほど愛着度が高い傾向にある。



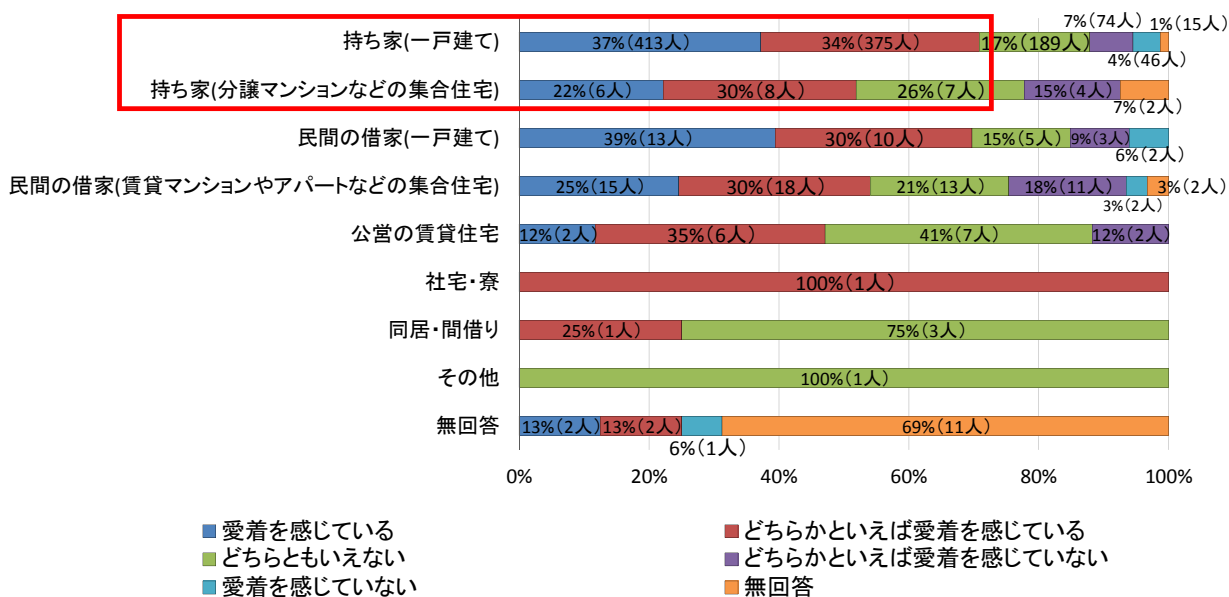
◆クロス集計【居住地×愛着度】

居住地別に見ると、全ての地域で「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」の合計値が多くなっているが、特に、上竹谷(100%)、北小泉(89%)、初原(79%)、根廻(77%)、幡谷(76%)など、北部地域で愛着度が高い傾向にある。



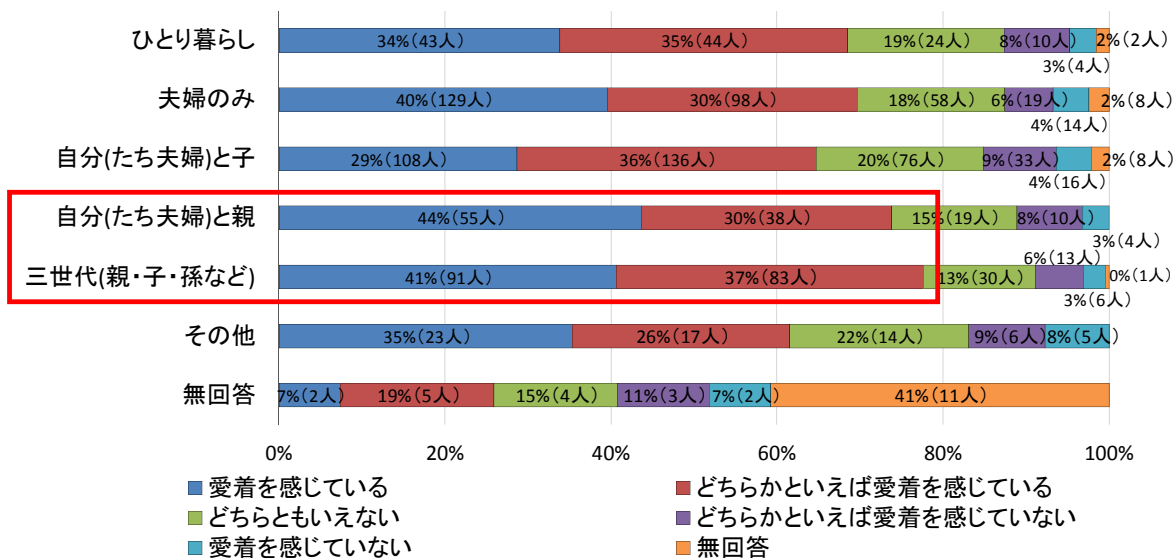
◆クロス集計【住居の種類×愛着度】

住居の種類別に見ると、全ての種類で「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」の合計値が多くなっているが、特に、持ち家(一戸建て) (71%)、民間の借家(一戸建て) (69%)、民間の借家(賃貸マンションやアパートなどの集合住宅) (55%) などが高く、一戸建てに住んでいる人の愛着度が高い傾向にある。



◆クロス集計【家族構成×愛着度】

家族構成別に見ると、全ての構成で「愛着を感じている」、「どちらかといえば愛着を感じている」の合計値が多くなっているが、特に、三世代(親・子・孫など) (78%)、自分(たち夫婦)と親 (74%)、夫婦のみ(70%) などが高く、**親と同居している人の愛着度が高い**傾向にある。

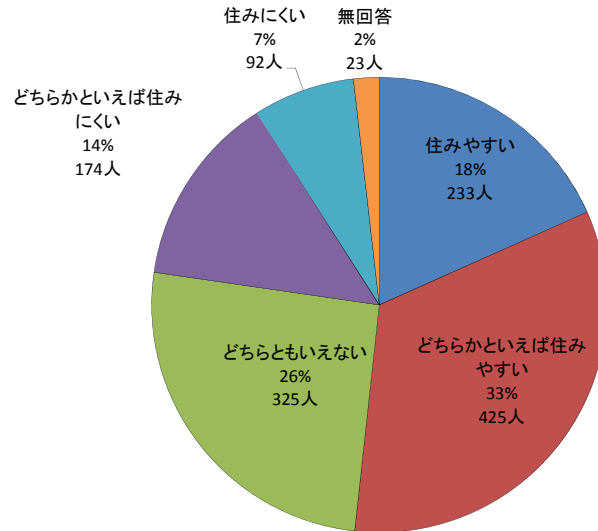


(4) 定住意向【問3～問5】

1) 住みやすさ【問3】

◆単純集計

「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計値が51%と高く、**住みやすいと感じている人が多い**傾向にある。

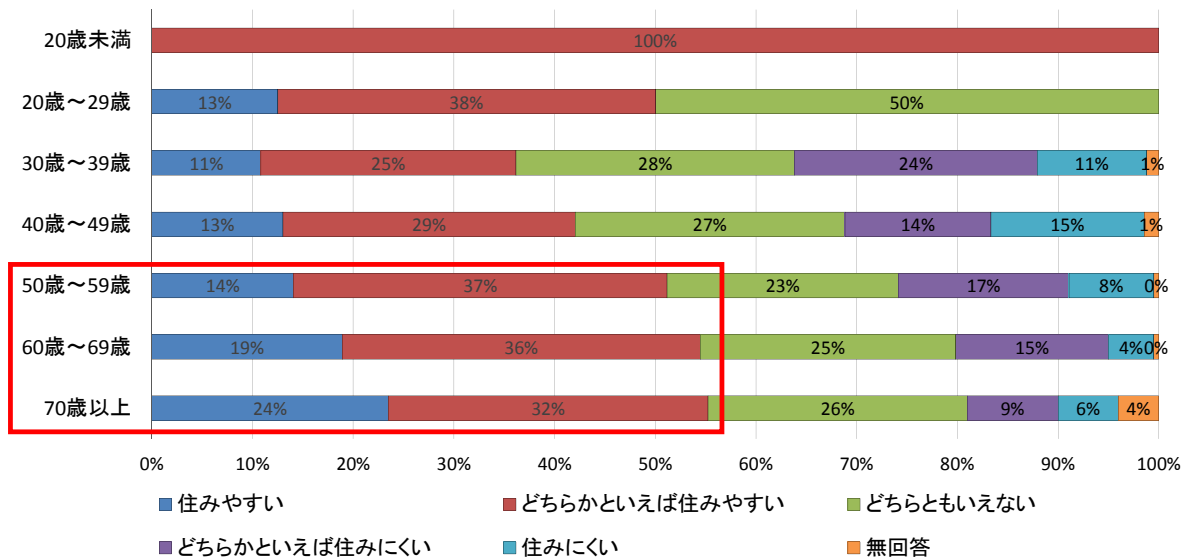


◆クロス集計【年齢×住みやすさ】

年齢別に見ると、全ての年代で「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」が多くなっているが、特に、高齢者ほど住みやすいと感じている人が多い傾向にある。

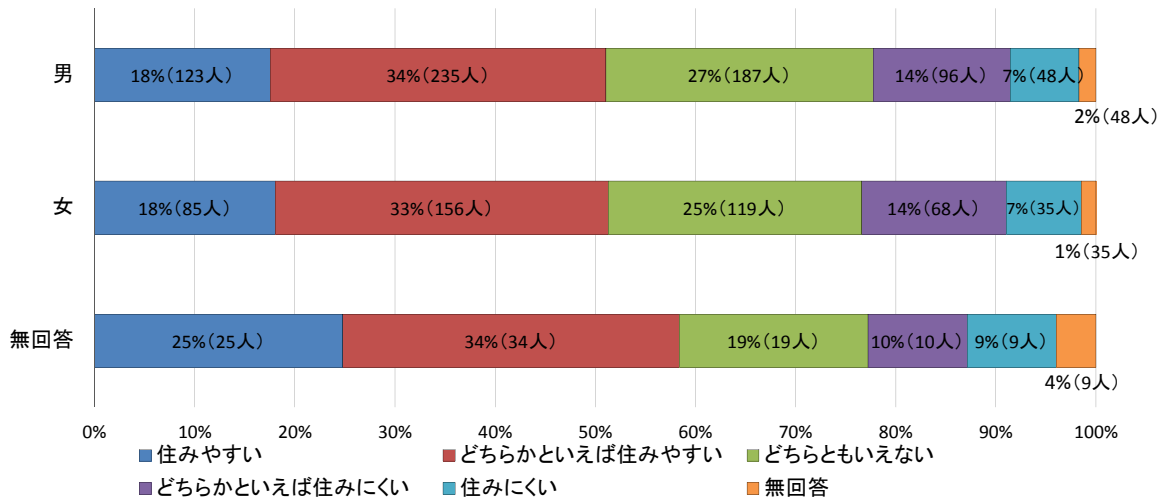
(単位:人)

	住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらともいえない	どちらかといえば住みにくい	住みにくい	無回答	計
20歳未満	0	1	0	0	0	0	1
20歳～29歳	2	6	8	0	0	0	16
30歳～39歳	9	21	23	20	9	1	83
40歳～49歳	18	40	37	20	21	2	138
50歳～59歳	30	79	49	36	18	1	213
60歳～69歳	76	143	102	61	18	2	402
70歳以上	94	127	103	36	24	16	400
無回答	4	8	3	1	2	1	19
計	233	425	325	174	92	23	1272



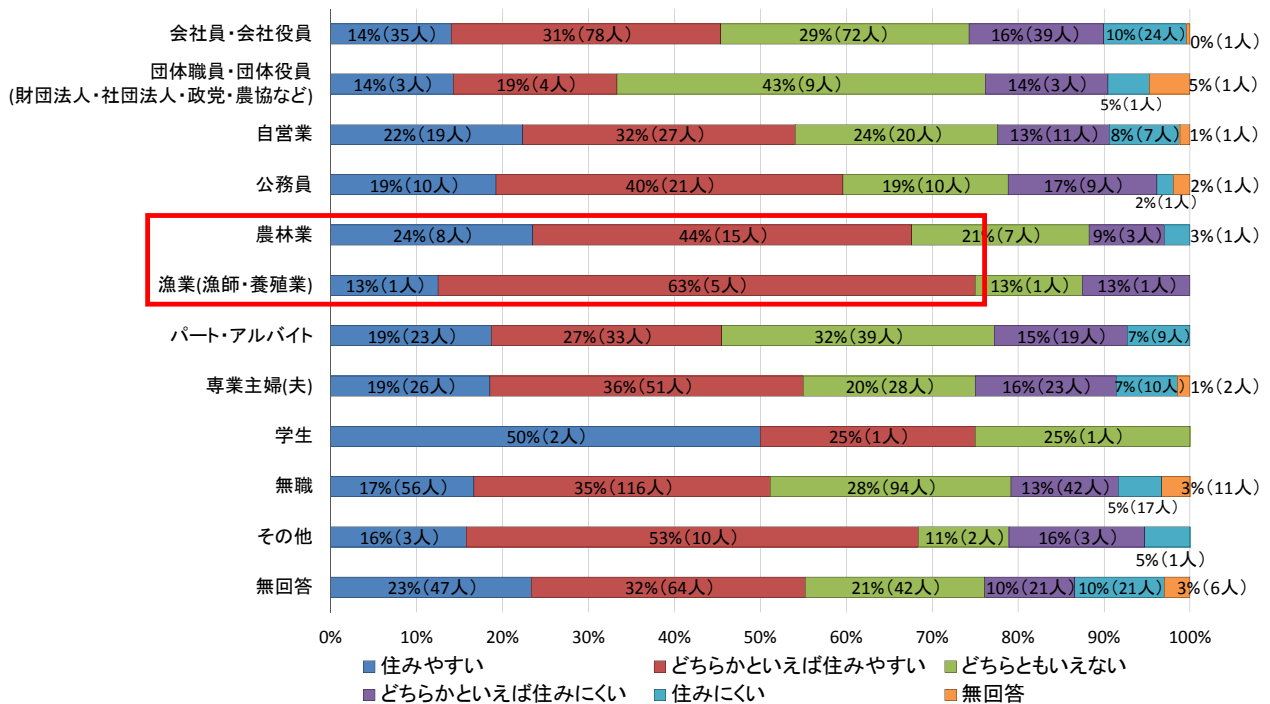
◆クロス集計【性別×住みやすさ】

性別で見ると、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計値が男性(52%)、女性(51%)とも多くなっており、性別では有意な差は見られなかった。



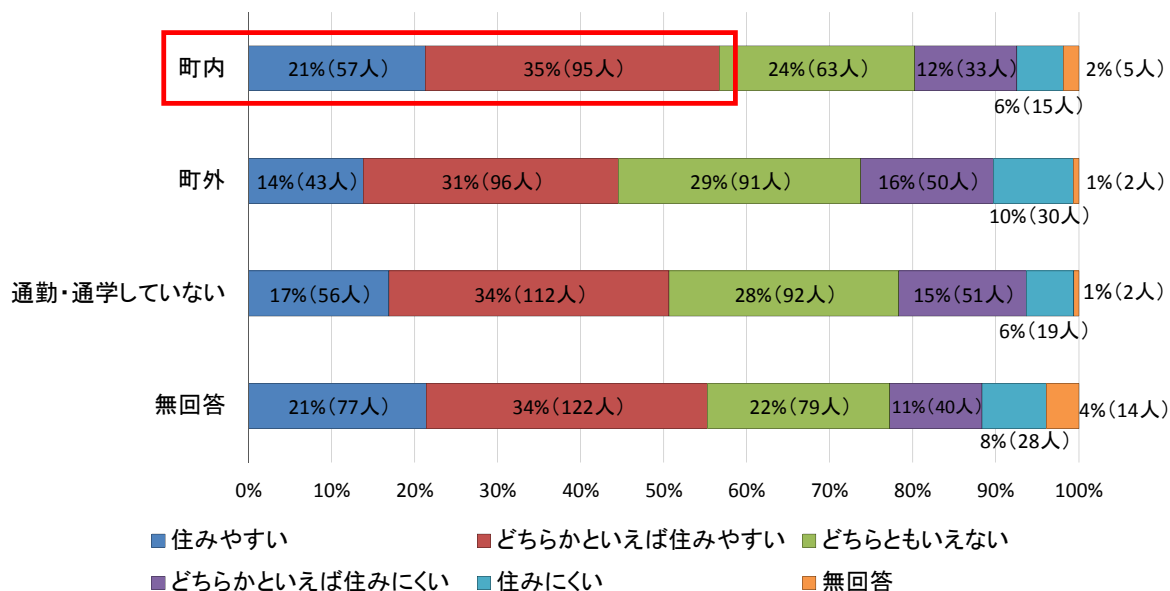
◆クロス集計【職業×住みやすさ】

現在の職業別に見ると、全ての職業で「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計値が多くなっているが、特に、漁業(漁師・養殖業) (76%)、学生(75%)、農林業(68%)、公務員(59%)などが高く、**第一次産業従事者は住みやすいと感じている人が多い**傾向にある。



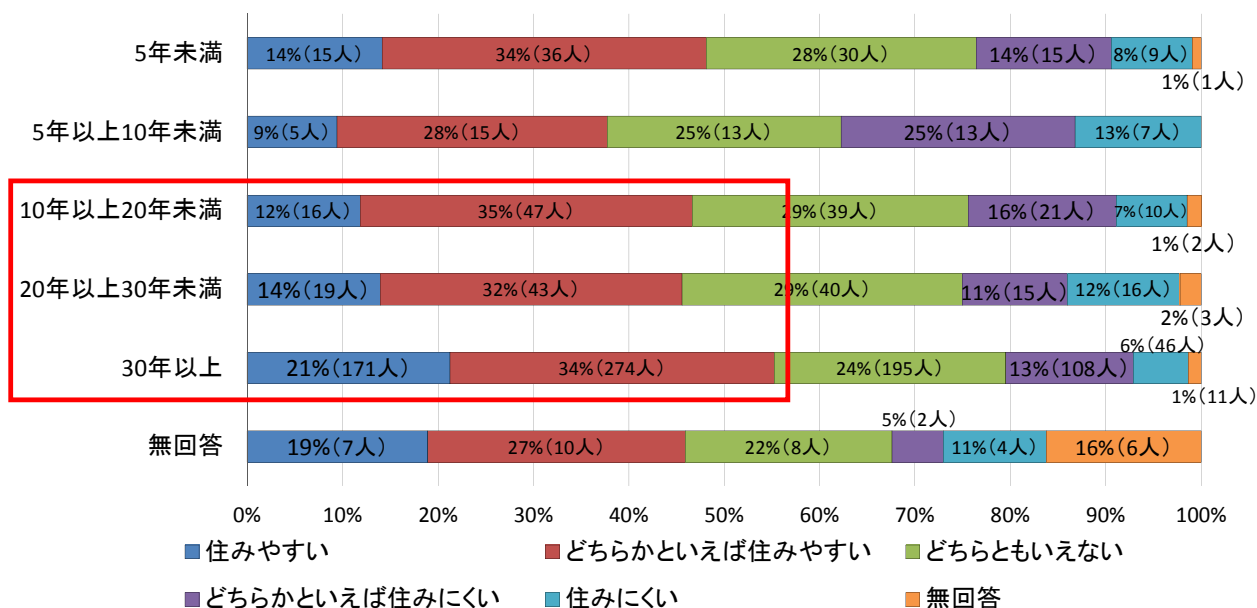
◆クロス集計【通勤・通学先×住みやすさ】

通勤・通学先で見ると、全ての通勤・通学先で「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計値が多くなっているが、特に、町内(56%)が町外(45%)に比べて高く、町内に通勤・通学している人ほど住みやすいと感じている人が多い傾向にある。



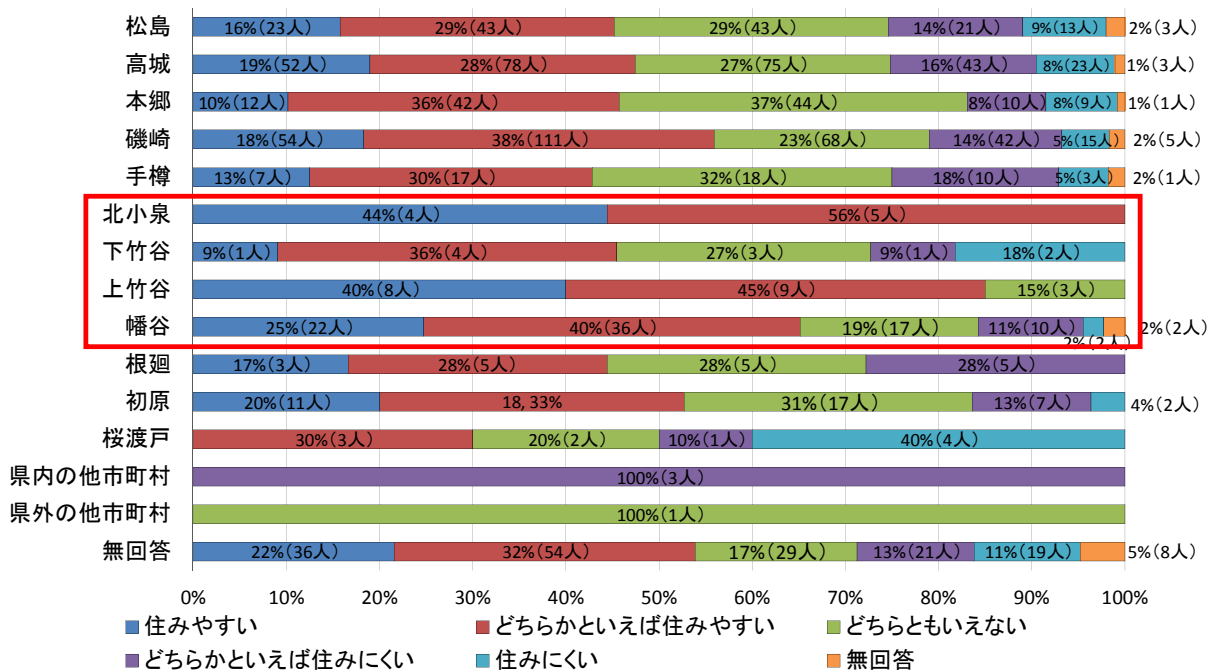
◆クロス集計【居住年数×住みやすさ】

居住年数別に見ると、全ての年数で「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計値が多くなっているが、特に、30年以上(55%)、5年未満(48%)、10年以上20年未満(47%)、20年以上30年未満(46%)などが高く、**居住年数の長い人ほど住みやすいと感じている人がやや多い**傾向にある。



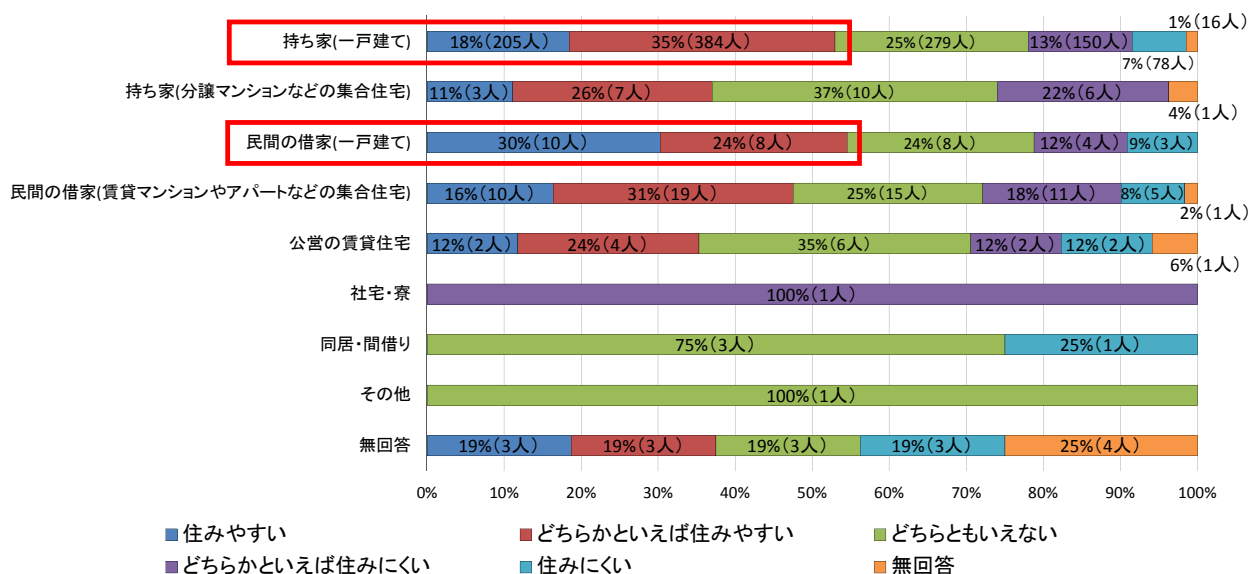
◆クロス集計【居住地×住みやすさ】

居住地別に見ると、全ての地域で「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計値が多くなっているが、特に、北小泉(100%)、上竹谷(85%)、幡谷(65%)など、北部地域の人は住みやすいと感じている人が多い傾向にある。



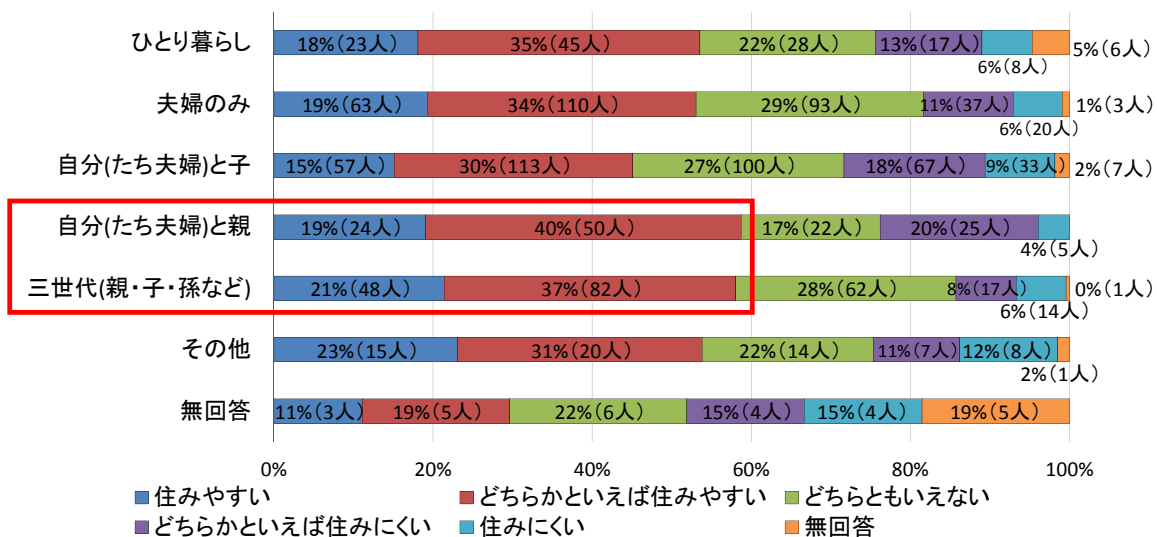
◆クロス集計【住居の種類×住みやすさ】

住居の種類別に見ると、全ての種類で「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計値が多くなっているが、特に、民間の借家(一戸建て)(54%)、持ち家(一戸建て)(53%)、民間の借家(賃貸マンションやアパートなどの集合住宅)(47%)などが高く、一戸建てに住んでいる人は住みやすいと感じている人が多い傾向にある。



◆クロス集計【家族構成×住みやすさ】

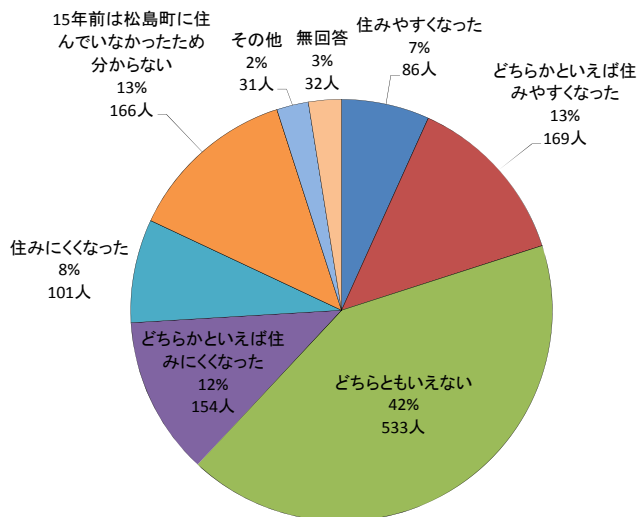
家族構成別に見ると、全ての構成で「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計値が多くなっているが、特に、自分(たち夫婦)と親(59%)、三世代(親・子・孫など)(58%)、夫婦のみ(53%)などが高く、親と同居している人は住みやすいと感じている人が多い傾向にある。



2) 15年前との住みやすさの比較【問4】

◆単純集計

「どちらともいえない」が42%と高く、「住みやすくなった」、「どちらかといえば住みやすくなった」の合計値と、「住みにくくなった」、「どちらかといえば住みにくくなった」の合計値が20%と同程度となっており、**15年前と住みやすさは変わっていないと感じている人が多い傾向にある。**

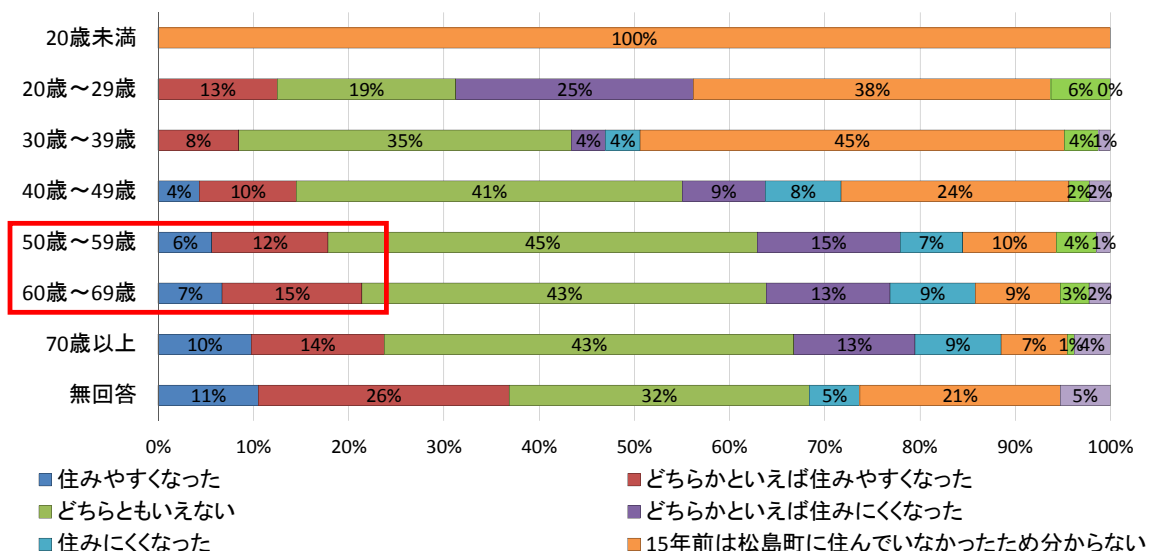


◆クロス集計【年齢×住みやすさ(15年前比較)】

年齢別に見ると、概ね「どちらともいえない」が多い傾向にあるが、**20代は「どちらかといえば住みにくくなった」が多くなっている。**なお、**15年前と比べて住みやすくなったと感じている人の割合は、高齢者ほど多い傾向にある。**

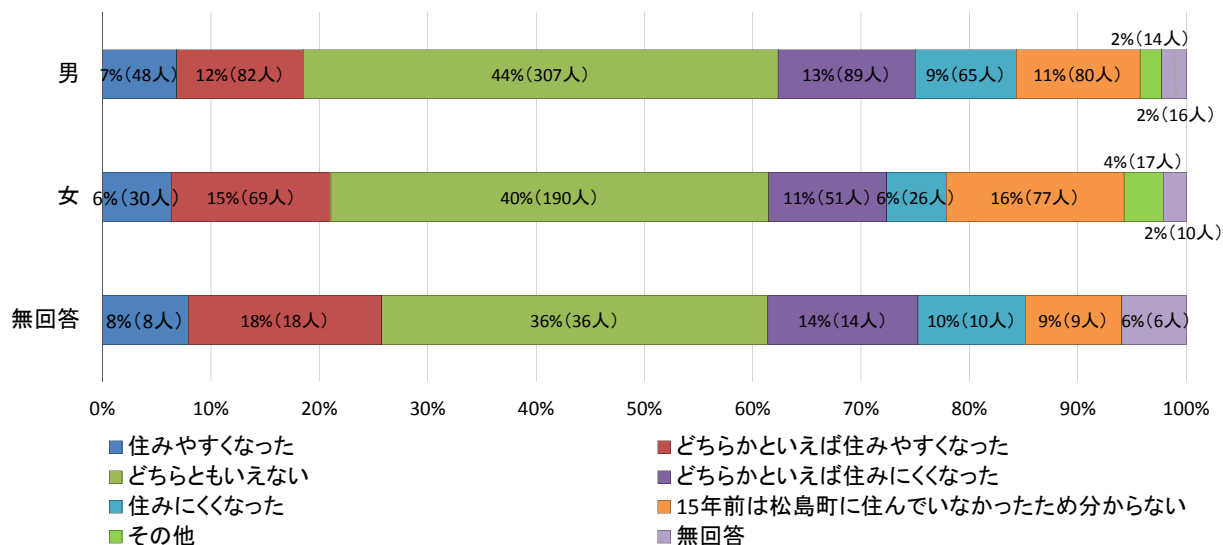
(単位:人)

	住みやすくなった	どちらかといえば住みやすくなった	どちらともいえない	どちらかといえば住みにくくなった	住みにくくなった	15年前は松島町に住んでいなかったため分からない	その他	無回答	計
20歳未満	0	0	0	0	0	1	0	0	1
20歳～29歳	0	2	3	4	0	6	1	0	16
30歳～39歳	0	7	29	3	3	37	3	1	83
40歳～49歳	6	14	56	12	11	33	3	3	138
50歳～59歳	12	26	96	32	14	21	9	3	213
60歳～69歳	27	59	171	52	36	36	12	9	402
70歳以上	39	56	172	51	36	28	3	15	400
無回答	2	5	6	0	1	4	0	1	19
計	86	169	533	154	101	166	31	32	1272



◆クロス集計【性別×住みやすさ(15年前比較)】

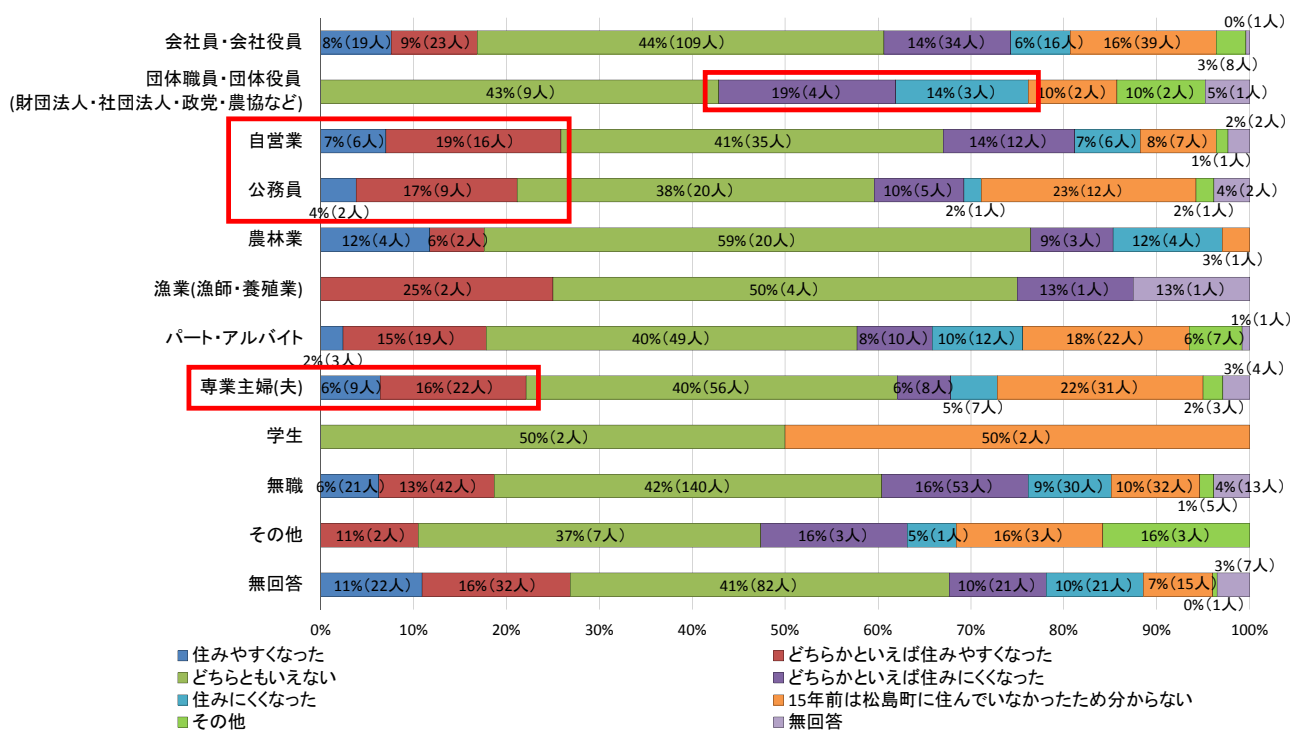
性別で見ると、「どちらともいえない」が男性、女性とも多く、性別では有意な差は見られなかった。



◆クロス集計【職業×住みやすさ(15年前比較)】

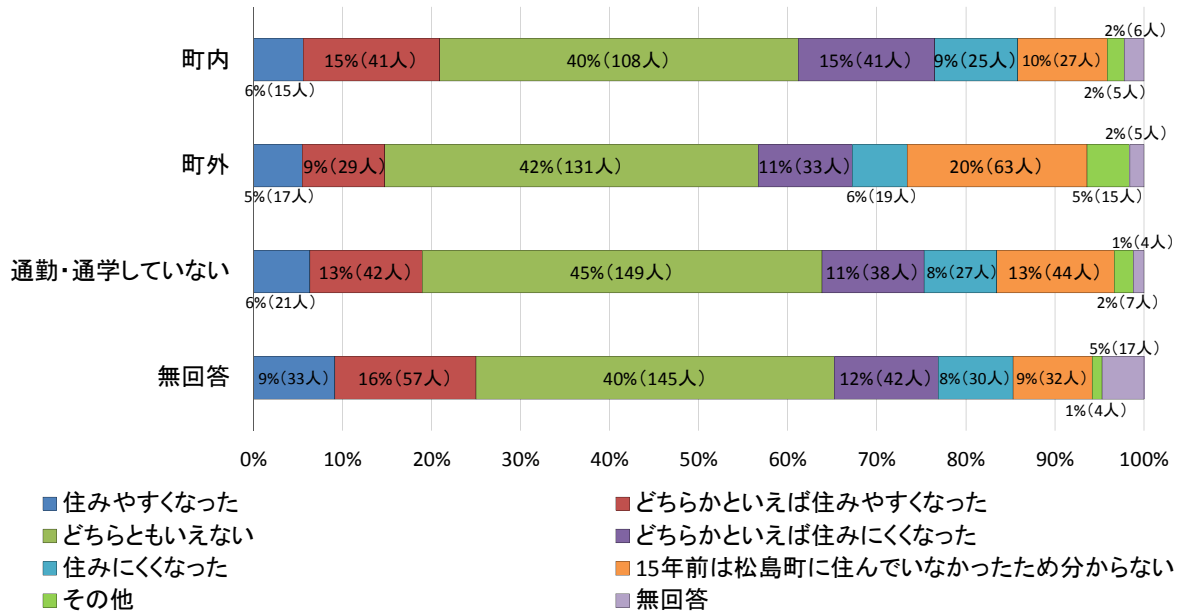
現在の職業別に見ると、全ての職業で「どちらともいえない」が多いが、以下の傾向が見られる。

- ・「**自営業**」、「**専業主婦(夫)**」、「**公務員**」は、「住みやすくなった」「どちらかといえば住みやすくなった」の合計値の割合が否定派に比べ多い。
- ・「**団体職員・団体役員(財団法人・社団法人・政党・農協など)**」については「住みにくくなった」「どちらかといえば住みにくくなった」の合計値の割合が肯定派に比べ多い。



◆クロス集計【通勤・通学先×住みやすさ(15年前比較)】

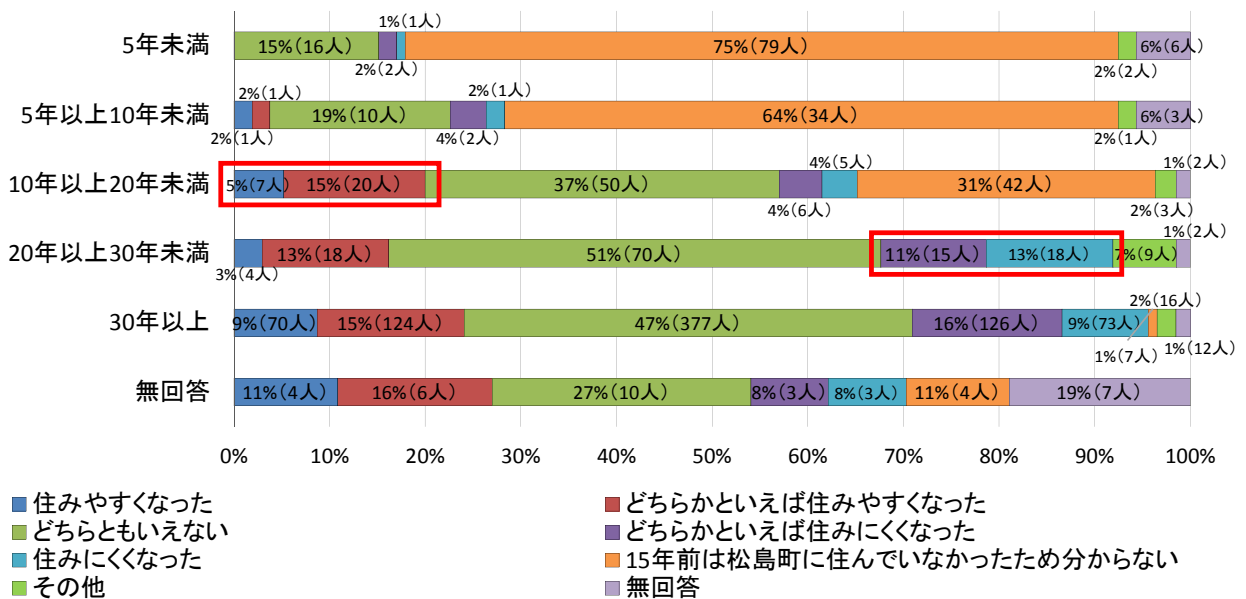
通勤・通学先で見ると、全ての通勤・通学で「どちらともいえない」が多く、通勤・通学先では有意な差は見られなかった。



◆クロス集計【居住年数×住みやすさ(15年前比較)】

居住年数別に見ると、概ね「どちらともいえない」が多いが、以下の傾向が見られる。

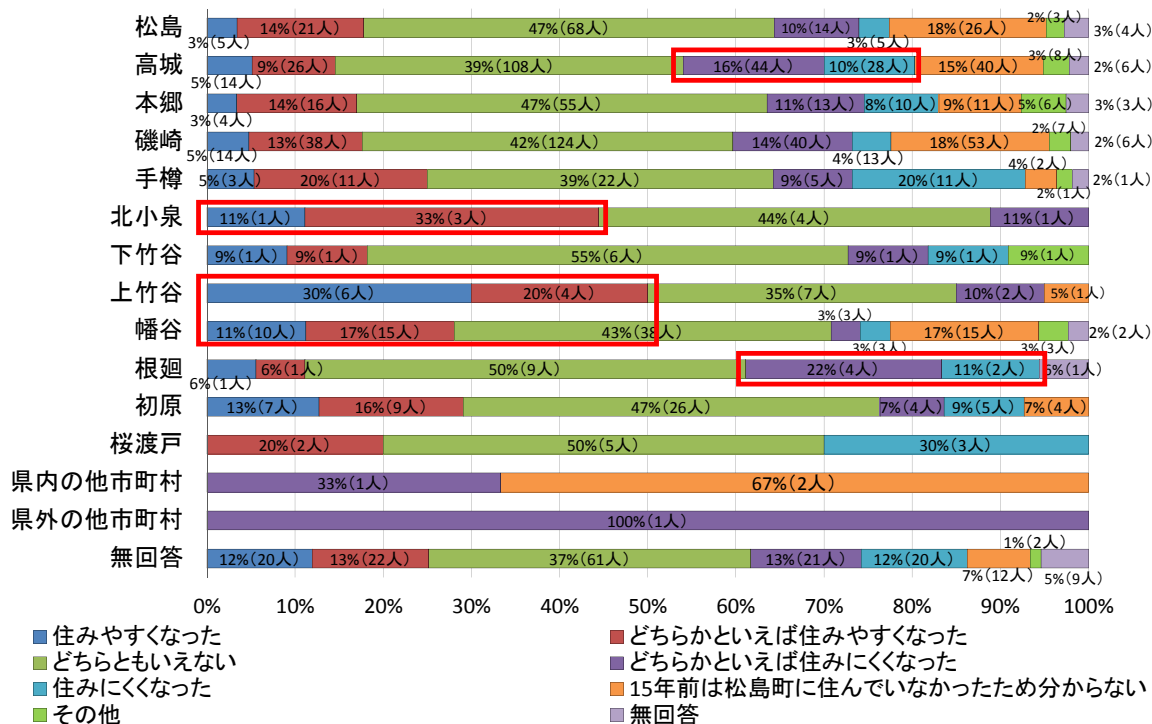
- ・「10年以上20年未満」は「住みやすくなった」「どちらかといえば住みやすくなった」の合計値の割合が否定派に比べ多い。
- ・「20年以上30年未満」は「住みにくくなった」「どちらかといえば住みにくくなった」の合計値の割合が肯定派に比べ多い。



◆クロス集計【居住地×住みやすさ(15年前比較)】

居住地別に見ると、概ね「どちらともいえない」が多いが、以下の傾向が見られる。

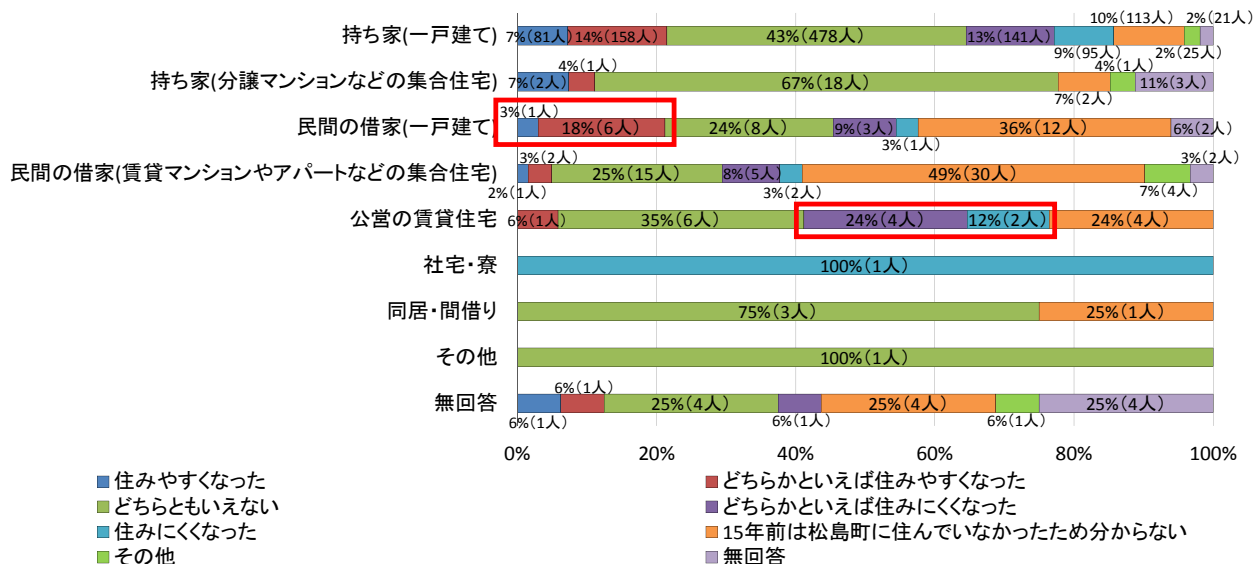
- ・「北小泉」、「上竹谷」、「幡谷」などの北部地域については「住みやすくなった」「どちらかといえば住みやすくなった」の合計値の割合が否定派に比べ多い。
- ・「高城」、「根廻」については「住みにくくなった」「どちらかといえば住みにくくなった」の合計値の割合が肯定派に比べ多い。



◆クロス集計【住居の種類×住みやすさ(15年前比較)】

住居の種類別に見ると、概ね「どちらともいえない」が多いが、以下の傾向が見られる。

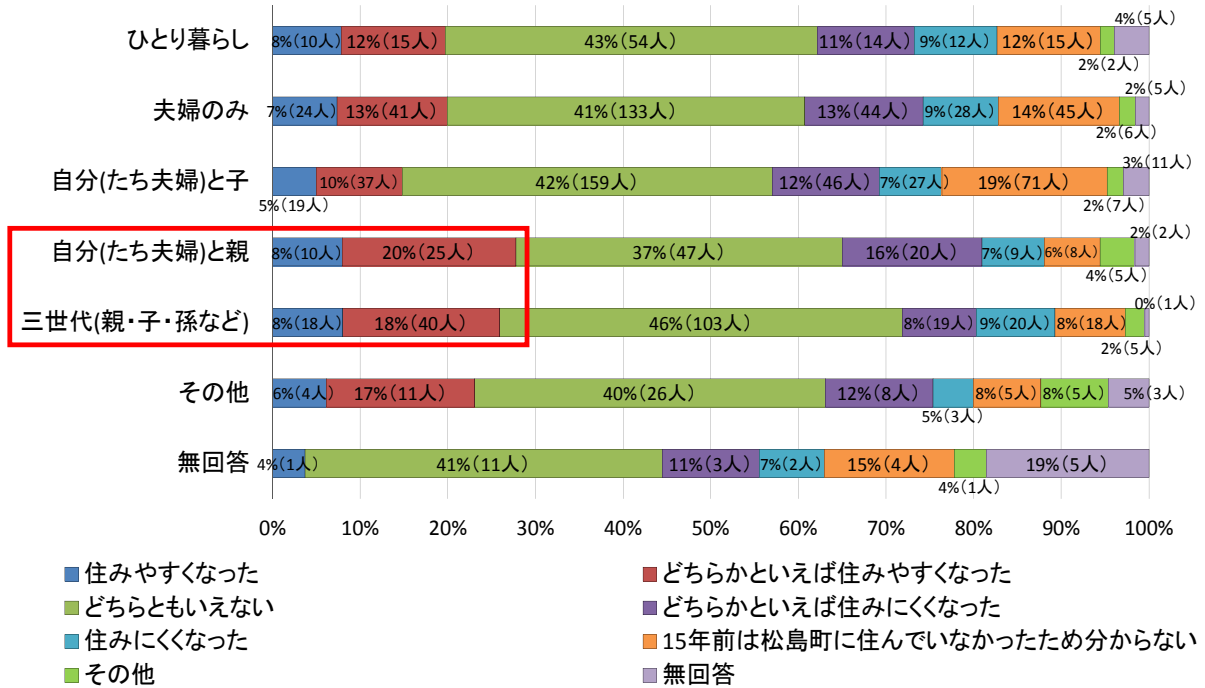
- ・「民間の借家(一戸建て)」は「住みやすくなった」「どちらかといえば住みやすくなった」の合計値の割合が否定派に比べ多い。
- ・「公営の賃貸住宅」は「住みにくくなった」「どちらかといえば住みにくくなった」の合計値の割合が肯定派に比べ多い。



◆クロス集計【家族構成×住みやすさ(15年前比較)】

家族構成別に見ると、全ての家族構成で「どちらともいえない」が多いが、以下の傾向が見られる。

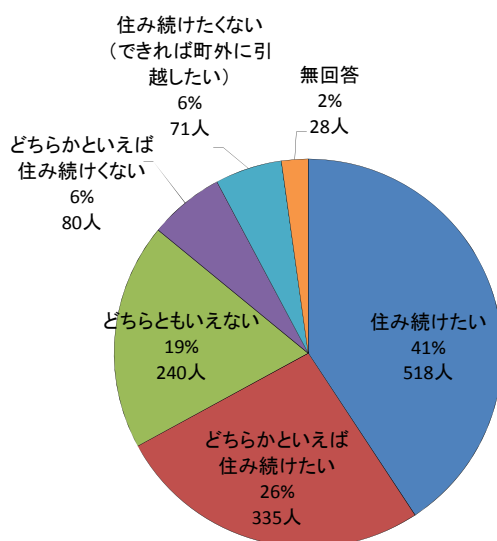
- ・「自分(たち夫婦)と親」、「三世代(親・子・孫など)」は、「住みやすくなった」「どちらかといえば住みやすくなった」の合計値の割合が否定派に比べ多い。



3) 今後の居住意向【問5】

◆単純集計

「住みたい」、「どちらかといえば住みたい」の合計値が67%と高く、**住みたいと感じている人が多い傾向**にある。

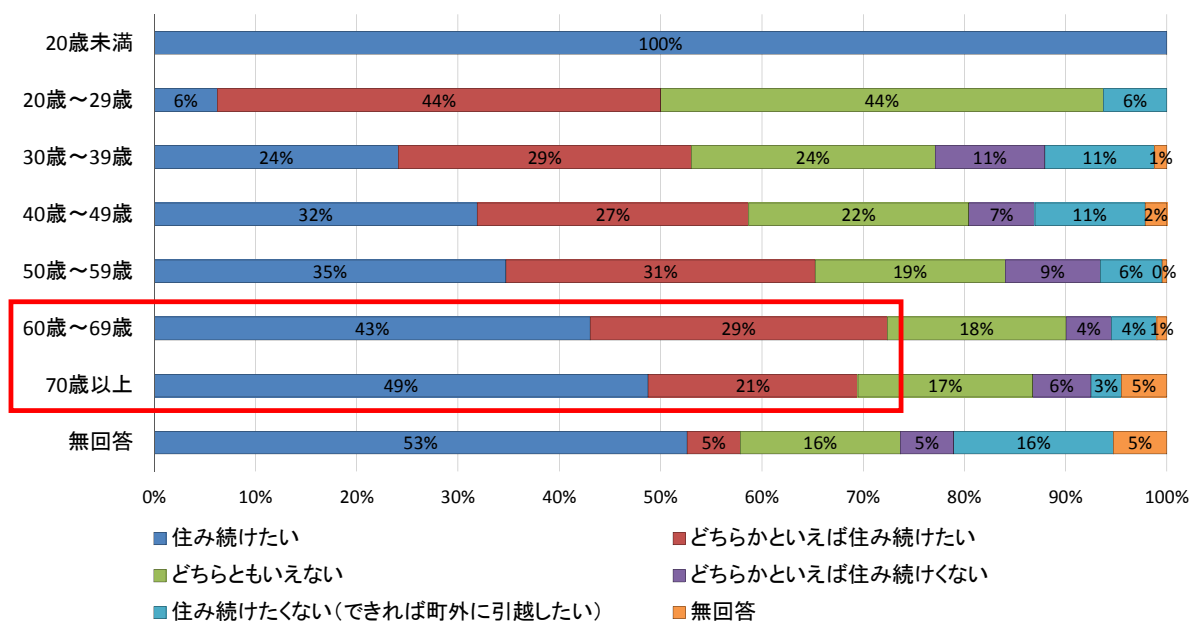


◆クロス集計【年齢×居住意向】

年齢別に見ると、全ての年代で「住みたい」、「どちらかといえば住みたい」が多くなっているが、特に、高齢者ほど「住みたい」と感じている人が多い傾向にある。

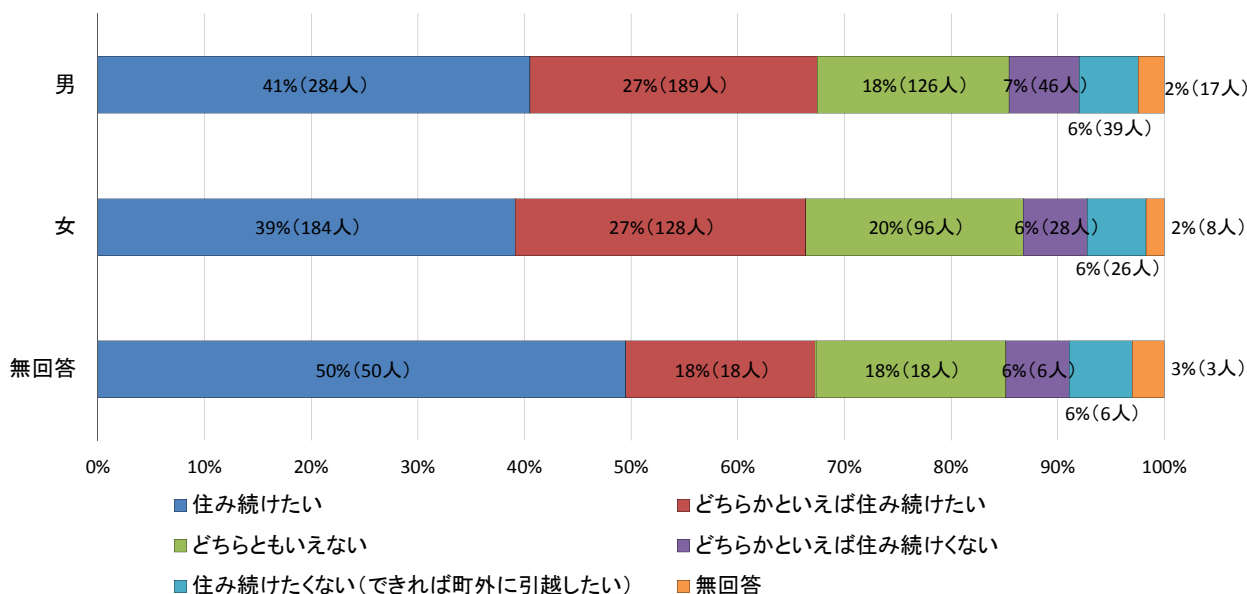
(単位:人)

	住みたい	どちらかといえば住みたい	どちらともいえない	どちらかといえば住み続けたくない	住み続けたくない(できれば町外に引越したい)	無回答	計
20歳未満	1	0	0	0	0	0	1
20歳～29歳	1	7	7	0	1	0	16
30歳～39歳	20	24	20	9	9	1	83
40歳～49歳	44	37	30	9	15	3	138
50歳～59歳	74	65	40	20	13	1	213
60歳～69歳	173	118	71	18	18	4	402
70歳以上	195	83	69	23	12	18	400
無回答	10	1	3	1	3	1	19
計	518	335	240	80	71	28	1272



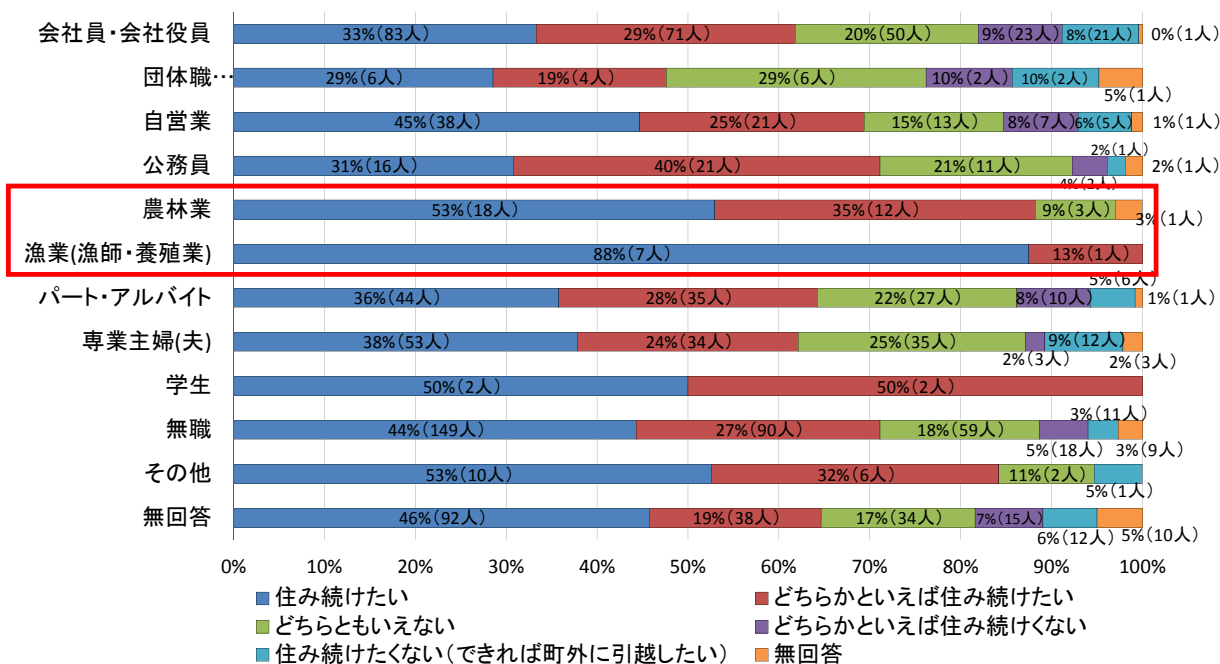
◆クロス集計【性別×居住意向】

性別で見ると、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」の合計値が男性(68%)、女性(66%)とも多くなっており、性別では有意な差は見られなかった。



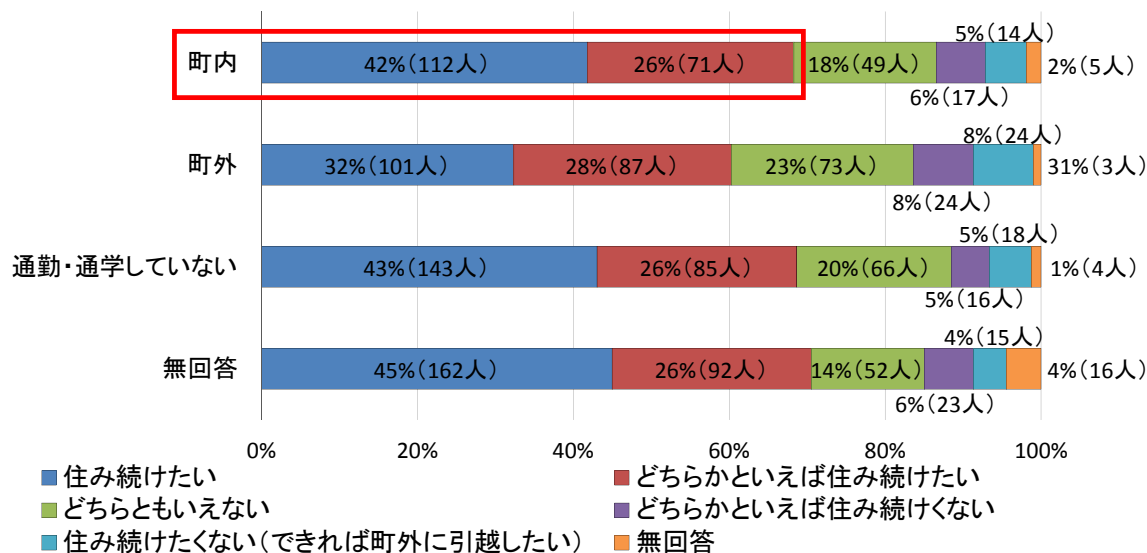
◆クロス集計【職業×居住意向】

現在の職業別に見ると、全ての職業で「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」の合計値が多くなっているが、特に、漁業(漁師・養殖業) (100%)、学生(100%)、農林業(88%)、公務員(71%)、無職(71%)などが高く、**第一次産業従事者は住み続けたいと感じている人が多い傾向にある。**



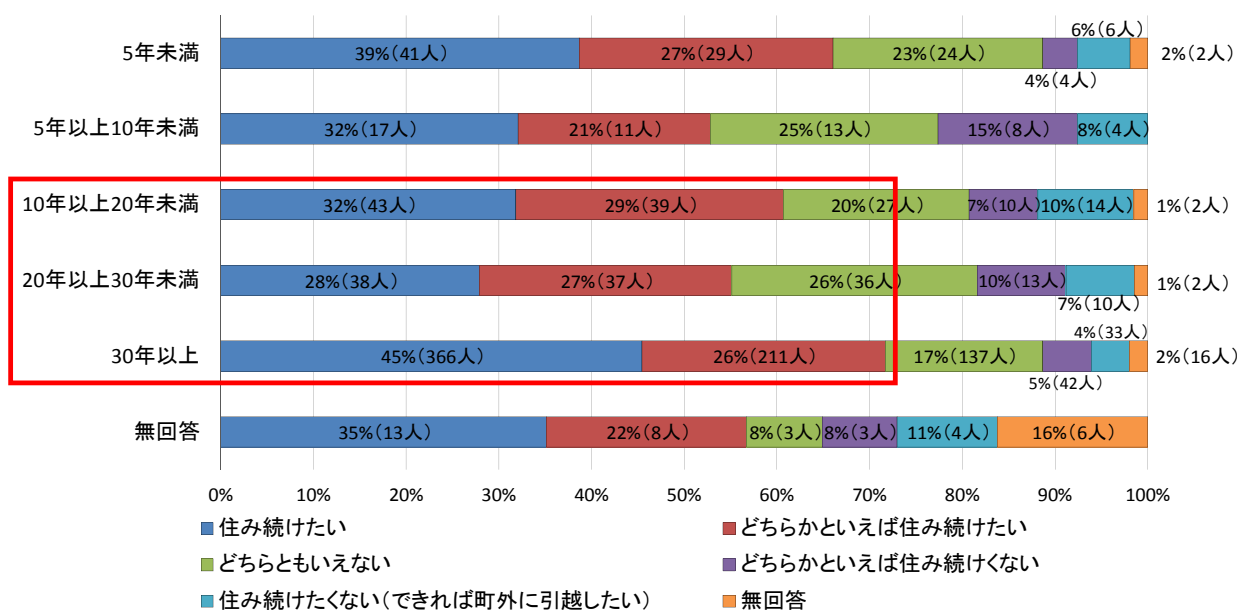
◆クロス集計【通勤・通学先×居留意向】

通勤・通学先で見ると、全ての通勤・通学先で「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」の合計値が多くなっているが、特に、町内(68%)が町外(60%)に比べて高く、町内に通勤・通学している人ほど住み続けたいと感じている人が多い傾向にある。



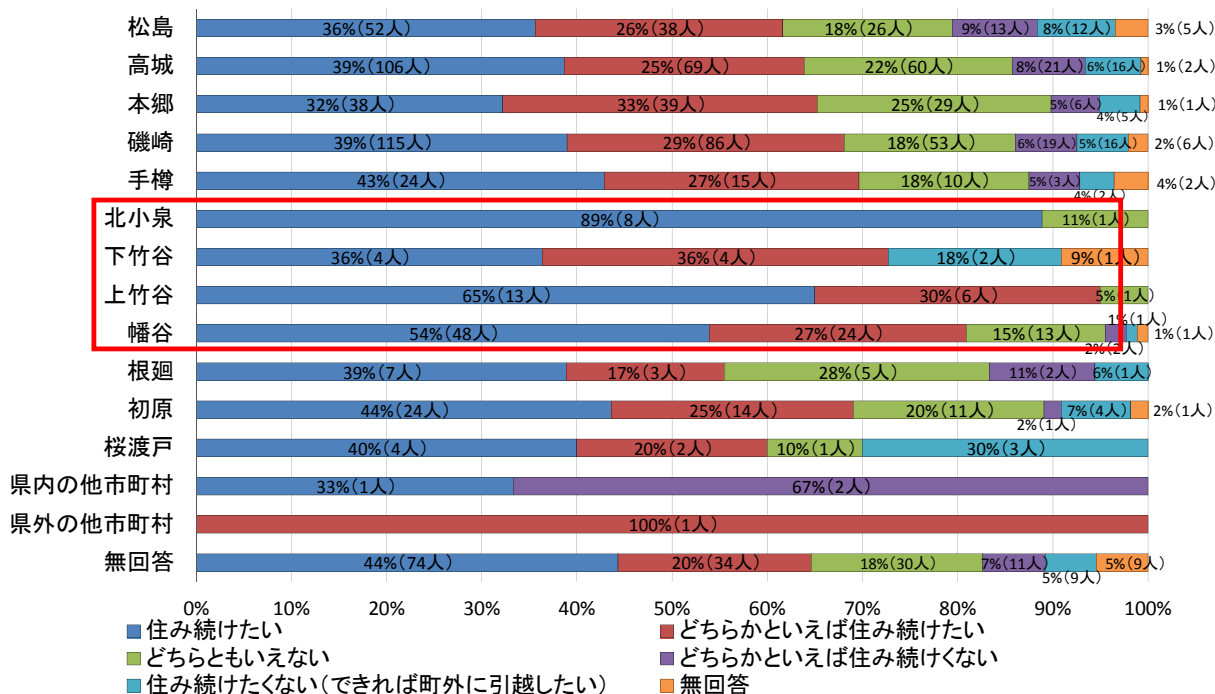
◆クロス集計【居住年数×居留意向】

居住年数別に見ると、全ての年数で「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」の合計値が多くなっているが、特に、30年以上(71%)、10年以上20年未満(61%)、20年以上30年未満(55%)などが高く、居住年数の長い人ほど住み続けたいと感じている人がやや多い傾向にある。



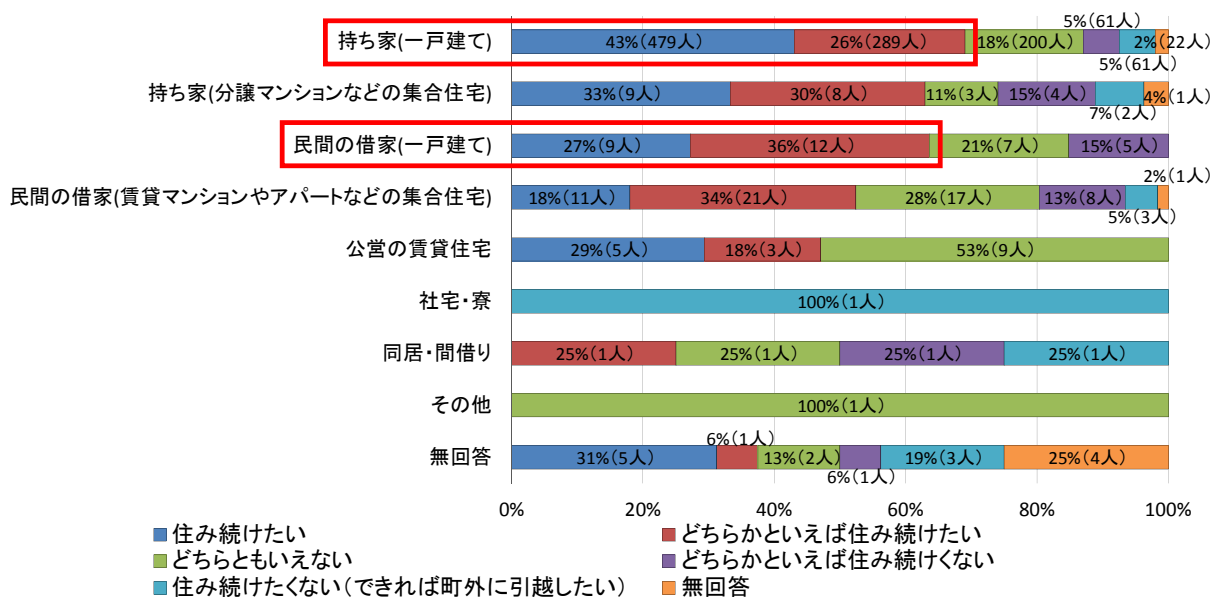
◆クロス集計【居住地×居住意向】

居住地別に見ると、全ての地域で「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」の合計値が多くなっているが、特に、上竹谷(95%)、北小泉(89%)、幡谷(81%)、下竹谷(72%)など、北部地域の方は住み続けたいと感じている人が多い傾向にある。



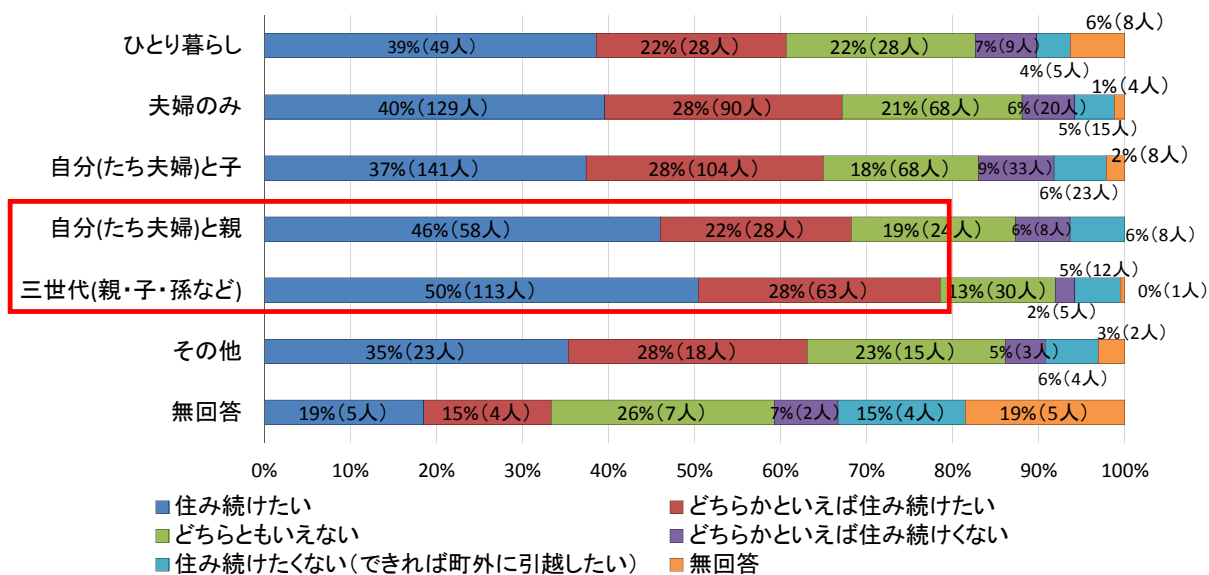
◆クロス集計【住居の種類×居住意向】

住居の種類別に見ると、全ての種類で「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」の合計値が多くなっているが、特に、持ち家(一戸建て) (69%)、民間の借家(一戸建て) (63%)、持ち家(分譲マンションなどの集合住宅) (63%) などが高く、一戸建てに住んでいる人は住み続けたいと感じている人が多い傾向にある。



◆クロス集計【家族構成×居住意向】

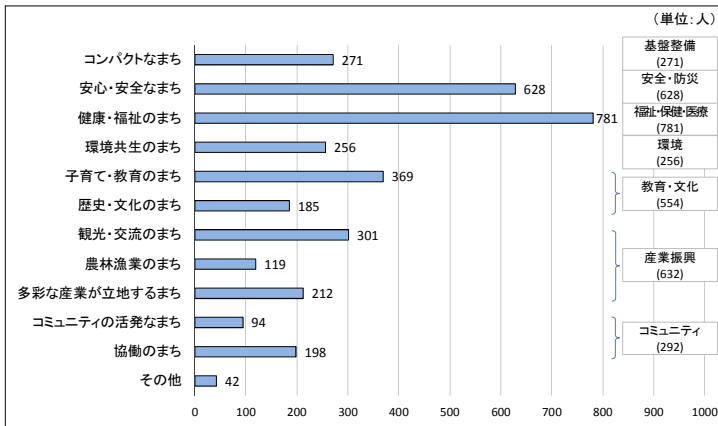
家族構成別に見ると、全ての構成で「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」の合計値が多くなっているが、特に、三世代(親・子・孫など) (78%)、自分(たち夫婦)と親 (68%)、夫婦のみ (68%) などが高く、**親と同居している人は住み続けたいと感じている人が多い**傾向にある。



(5) 望ましい10年後の将来像【問6（複数回答：3つまで選択）】

◆単純集計

回答者の63%が60歳以上の高齢者ということもあり、「健康・福祉のまち」が781人と最も多く、次いで「安心・安全なまち」が628人、「子育て・教育のまち」が369人となっている。



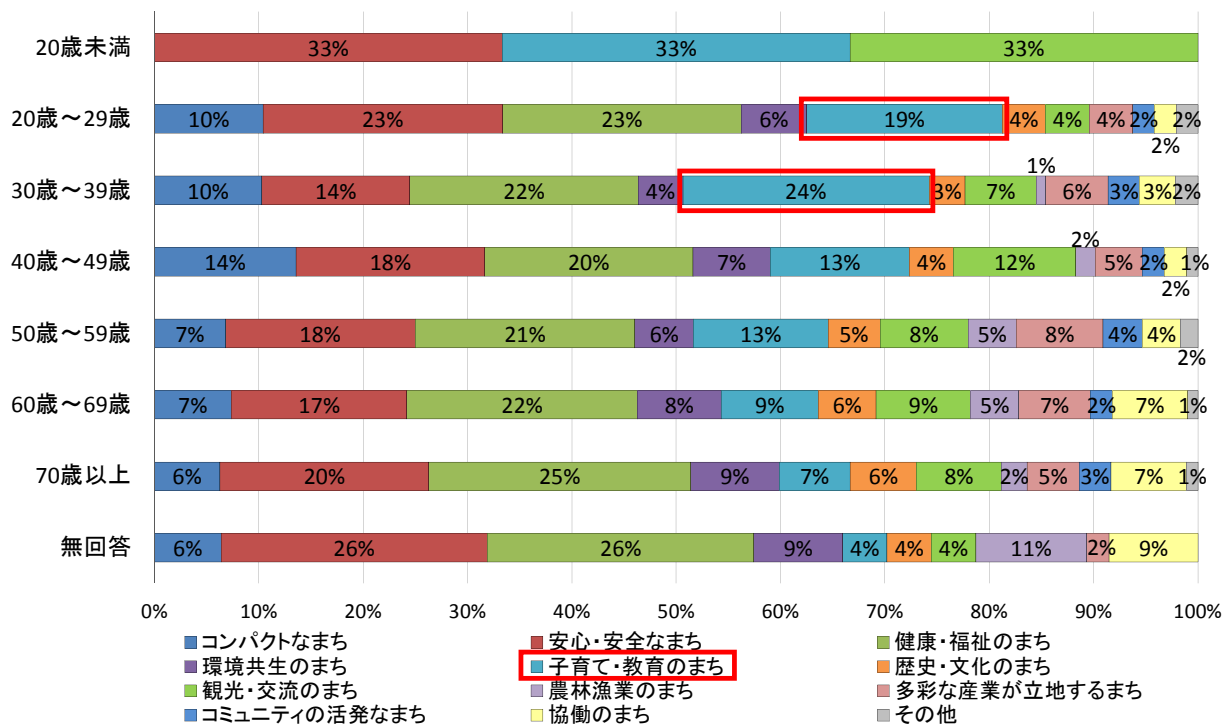
●望ましい将来像のアンケート選択肢

1. コンパクトなまち (魅力ある市街地や快適な住環境が近接するまち)
2. 安心・安全なまち (防災対策や治安・交通安全対策が充実しているまち)
3. 健康・福祉のまち (人にやさしい福祉・保健・医療が充実しているまち)
4. 環境共生のまち (恵まれた自然環境を大切にすまち)
5. 子育て・教育のまち (子育て支援や子どもの教育環境が充実しているまち)
6. 歴史・文化のまち (文化遺産を大切にし、生涯学習や文化活動が活発なまち)
7. 観光・交流のまち (観光資源を活かした観光・交流事業が進んだまち)
8. 農林漁業のまち (恵まれた農産物や魚介類を活かすまち)
9. 多彩な産業が立地するまち (地場産業の育成や企業誘致などを行うまち)
10. コミュニティの活発なまち (地域のイベントやボランティア活動が盛んなまち)
11. 協働のまち (町民・事業者・行政の各主体が協力してまちづくりを行うまち)
12. その他 (具体的に:)

◆クロス集計【年齢×将来像】

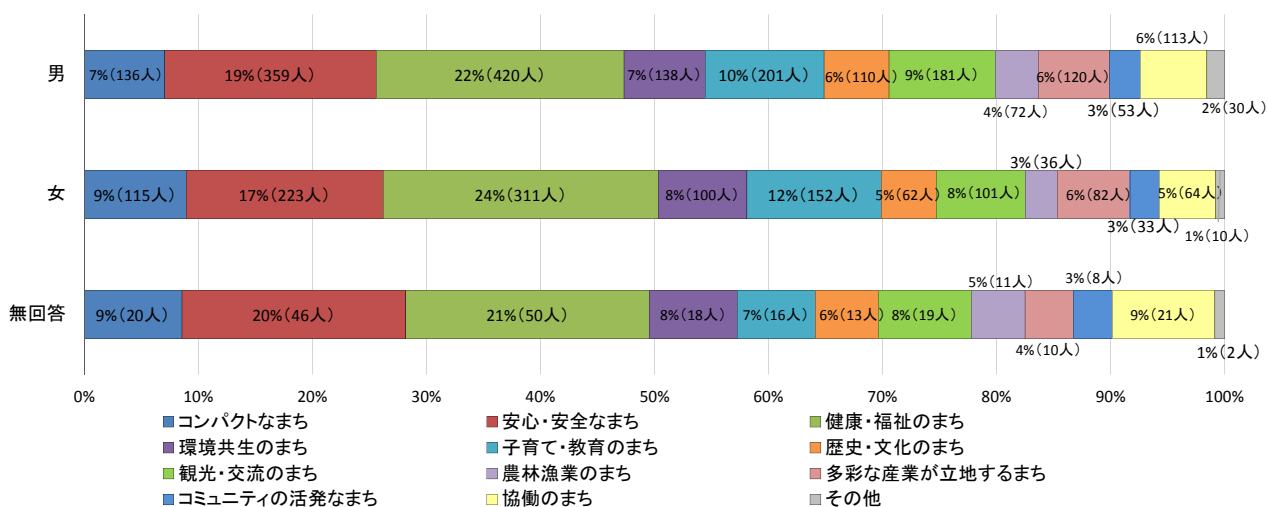
年齢別に見ると、概ね「健康・福祉のまち」、「安心・安全なまち」が多くなっているが、子育ての現役世代では「子育て・教育のまち」も多い。

	コンパクトなまち	安心・安全なまち	健康・福祉のまち	環境共生のまち	子育て・教育のまち	歴史・文化のまち	観光・交流のまち	農林漁業のまち	多彩な産業が立地するまち	コミュニティの活発なまち	協働のまち	その他	計
20歳未満	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
20歳～29歳	5	11	11	3	9	2	2	0	2	1	1	1	48
30歳～39歳	24	33	51	10	55	8	16	2	14	7	8	5	233
40歳～49歳	51	68	75	28	50	16	44	7	17	8	8	4	376
50歳～59歳	41	110	127	34	78	30	51	28	50	23	22	10	604
60歳～69歳	83	189	249	90	105	62	102	52	77	24	81	11	1125
70歳以上	64	204	256	87	69	65	83	25	51	31	74	11	1020
無回答	3	12	12	4	2	2	2	5	1	0	4	0	47
計	271	628	781	256	369	185	301	119	212	94	198	42	3456



◆クロス集計【性別×将来像】

性別で見ると、男女とも「健康・福祉のまち」、「安心・安全なまち」、「子育て・教育のまち」が多くなっており、性別では有意な差は見られなかった。



◆クロス集計【職業×将来像】

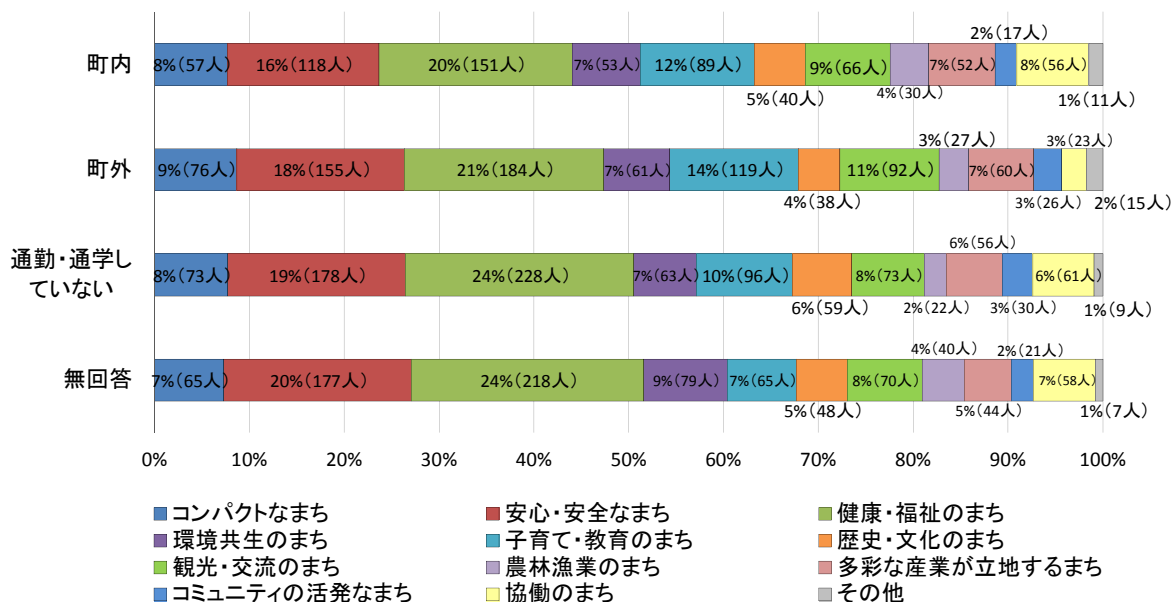
現在の職業別に見ると、概ね「健康・福祉のまち」、「安心・安全なまち」、「子育て・教育のまち」が多くなっているが、以下の傾向が見られる。

- ・農林業、漁業(漁師・養殖業)は、「農林漁業のまち」が1位と2位
- ・学生は、「子育て・教育のまち」が「健康・福祉のまち」、「安心・安全なまち」と同数で1位



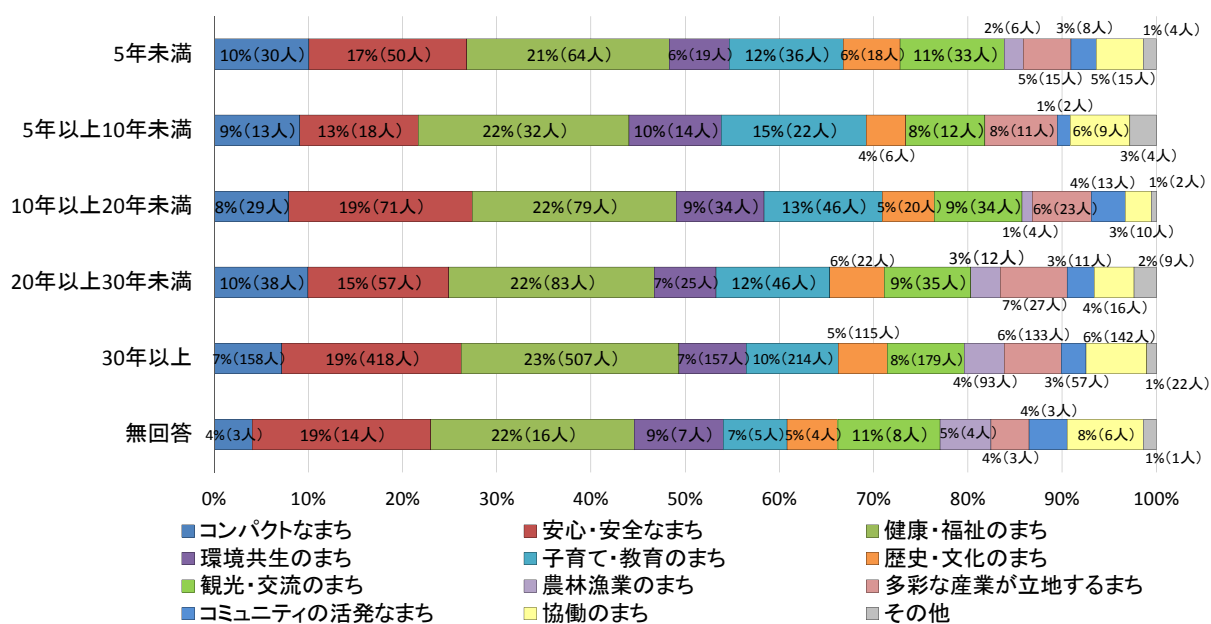
◆クロス集計【通勤・通学先×将来像】

通勤・通学先で見ると、町内・町外の通勤・通学先とも「健康・福祉のまち」、
「安心・安全なまち」、
「子育て・教育のまち」が多くなっており、通勤・通学先では
有意な差は見られなかった。



◆クロス集計【居住年数×将来像】

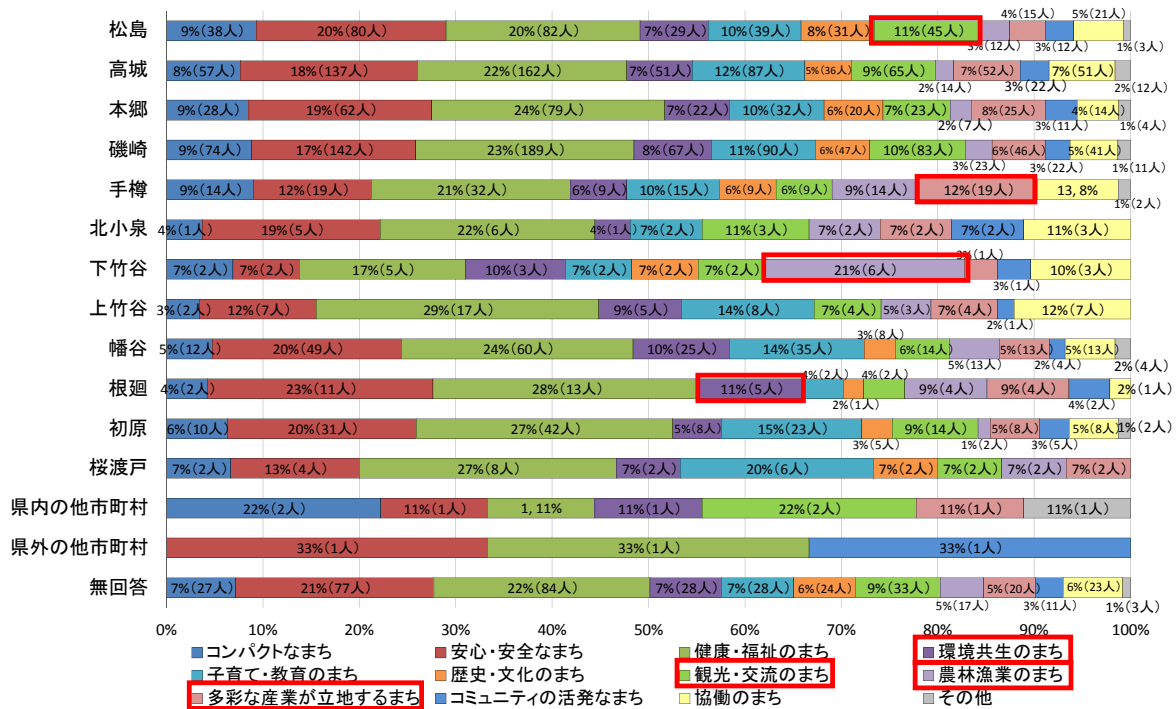
居住年数別に見ると、全ての年数で「健康・福祉のまち」、
「安心・安全なまち」、
「子育て・教育のまち」が多くなっており、居住年数別では有意な差は見られなかった。



◆クロス集計【居住地×将来像】

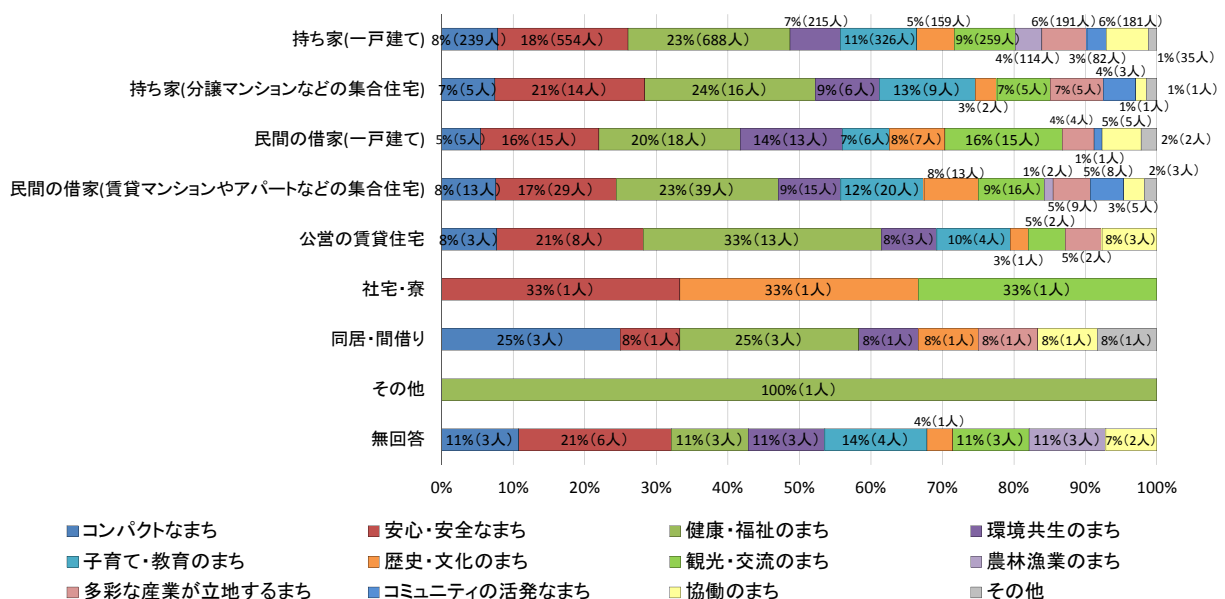
居住地別に見ると、概ね「健康・福祉のまち」、「安心・安全なまち」、「子育て・教育のまち」が多くなっているが、以下の傾向が見られる。

- ・松島地区は、「健康・福祉のまち」、「安心・安全なまち」に次いで「観光・交流のまち」が3位
- ・手樽地区は、「健康・福祉のまち」に次いで、「安心・安全なまち」と「多彩な産業が立地するまち」が2位タイ
- ・下竹谷地区は、「農林漁業のまち」が1位。次いで「健康・福祉のまち」、「環境共生のまち」及び「協働のまち」
- ・根廻地区は、「健康・福祉のまち」、「安心・安全なまち」に次いで「環境共生のまち」が3位



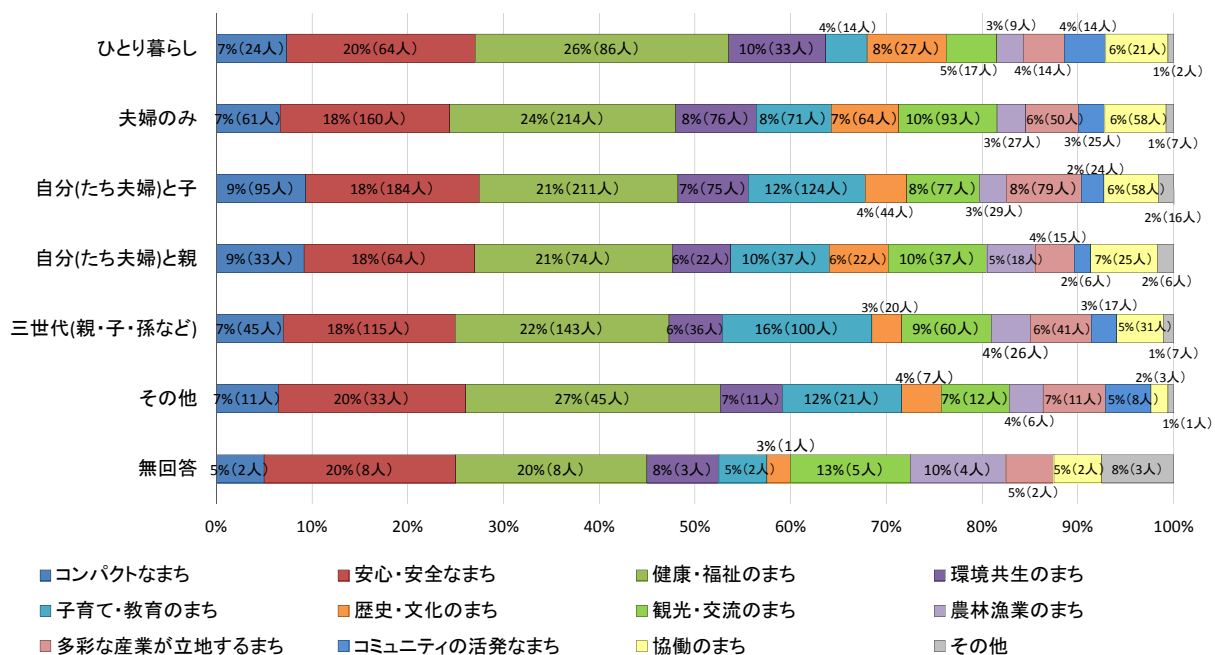
◆クロス集計【住居の種類×将来像】

住居の種類別に見ると、全て「健康・福祉のまち」、「安心・安全なまち」、「子育て・教育のまち」が多くなっており、住居の種類別では有意な差は見られなかった。



◆クロス集計【家族構成×将来像】

家族構成別に見ると、概ね「健康・福祉のまち」、「安心・安全なまち」、「子育て・教育のまち」が多くなっており、家族構成別では有意な差は見られなかった。



(6) 町の取り組みに関する満足度と重要度の評価【問7】

1) 満足度と重要度の評価

現行計画における各分野別の取り組み（52項目）に関する「現状の満足度」・「今後の重要度」の評価について、5段階評価の平均（満足：5点、やや満足：4点、どちらともいえない：3点、やや不満：2点、不満：1点とした場合の全回答者の平均）を整理した結果を以下に示す。

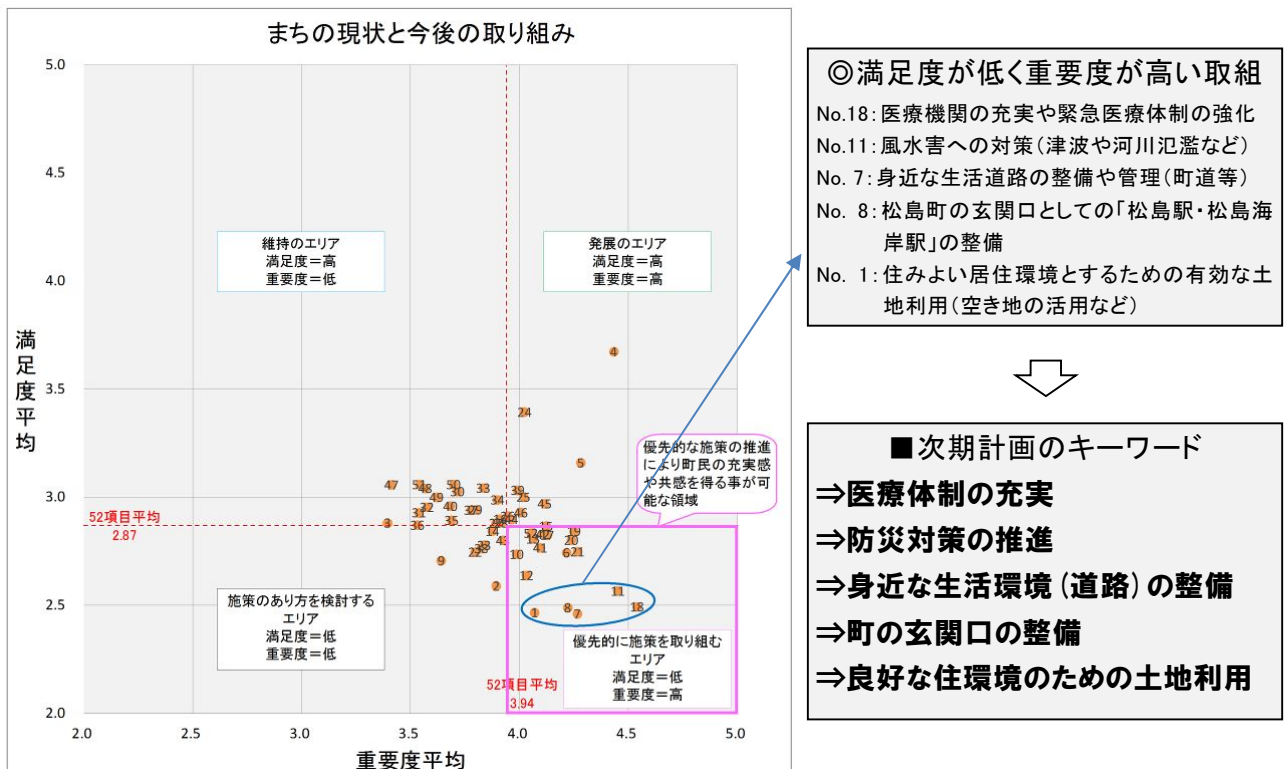
◆現状の満足度の低い10項目

順位	分野	取り組み	平均
1	基盤整備分野	身近な生活道路の整備や管理(町道等)	2.46
2	基盤整備分野	住みよい住居環境とするための有効な土地利用(空き地の活用など)	2.46
3	福祉・保健・医療分野	医療機関の充実や緊急医療体制の強化	2.49
4	基盤整備分野	松島町の玄関口としての「松島駅・松島海岸駅」の整備	2.49
5	安全・防災対策分野	風水害への対策(津波や氾濫など)	2.57
6	基盤整備分野	身近な公園・緑地の整備	2.59
7	安全・防災対策分野	一般住宅の耐震化に向けた支援	2.64
8	基盤整備分野	町営バスの利用のしやすさ	2.71
9	基盤整備分野	公共施設や公共交通機関のバリアフリー化	2.74
10	基盤整備分野	他市町村との行き来をするための道路網の整備	2.74

◆今後の重要度の高い10項目

順位	分野	取り組み	平均
1	福祉・保健・医療分野	医療機関の充実や緊急医療体制の強化	4.54
2	安全・防災対策分野	風水害への対策(津波や氾濫など)	4.45
3	基盤整備分野	安全・安心な飲み水の安定供給	4.43
4	基盤整備分野	下水道や合併処理浄化槽の整備	4.28
5	福祉・保健・医療分野	国民健康保険や介護保険などの社会保障制度	4.27
6	基盤整備分野	身近な生活道路の整備や管理(町道等)	4.27
7	福祉・保健・医療分野	高齢者・障がい者のための福祉サービス	4.25
8	福祉・保健・医療分野	安心して子育てできる環境整備(保育サービスの充実など)	4.24
9	基盤整備分野	松島町の玄関口としての「松島駅・松島海岸駅」の整備	4.22
10	基盤整備分野	他市町村との行き来をするための道路網の整備	4.21

◆散布図（満足度・重要度平均）による優先性の高い取り組み



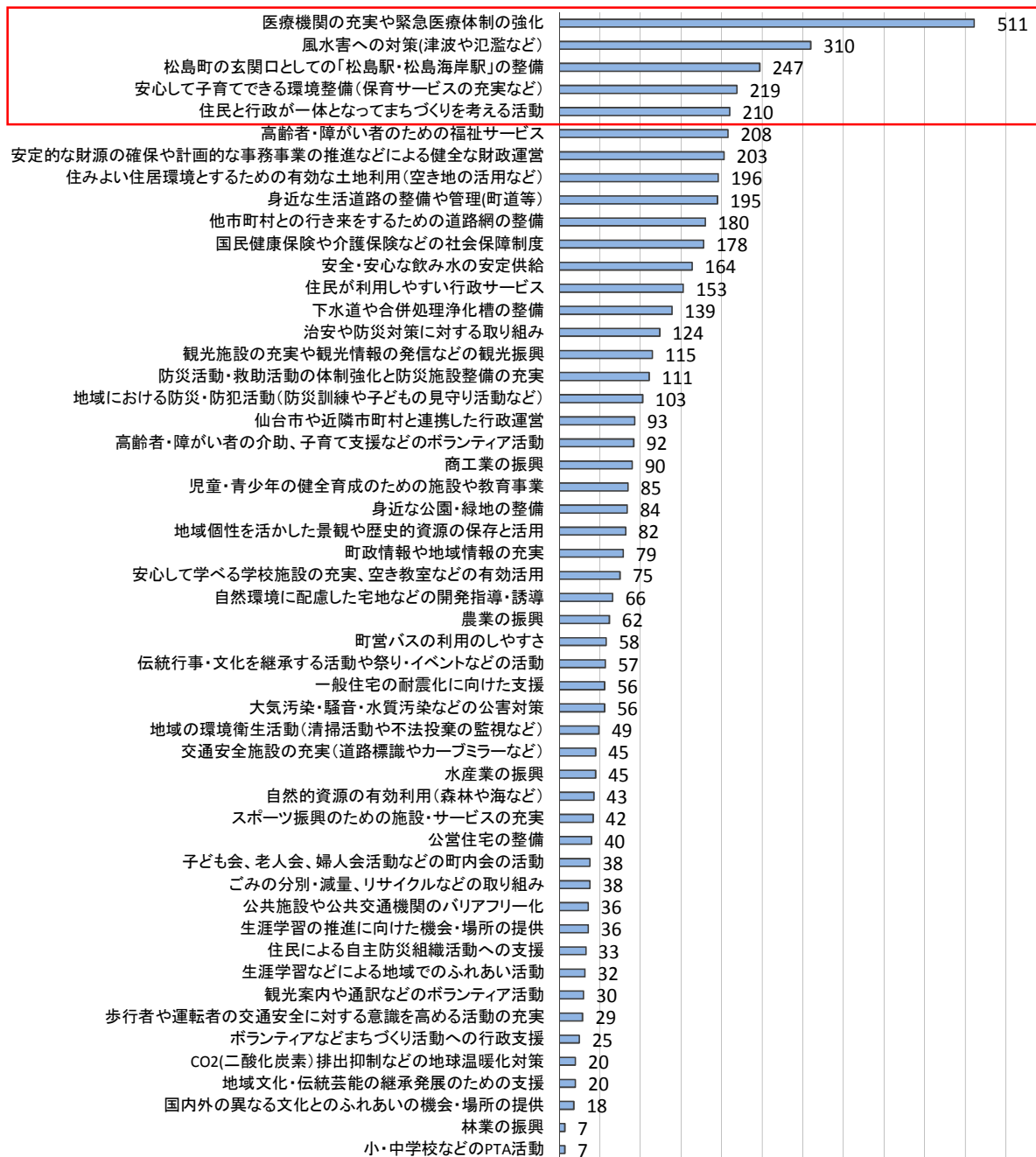
(7) 町の取り組みで特に重要と思う取り組み【問8（複数回答：5つまで選択）】

◆単純集計

町の取り組み（52項目）のうち、特に重要と思う取り組みは、以下の取り組みが多くなっている。

「医療機関の充実や緊急医療体制の強化」	511人
「風水害への対策(津波や河川氾濫など)」	310人
「松島町の玄関口としての「松島駅・松島海岸駅」の整備」	247人
「安心して子育てできる環境整備(保育サービスの充実など)」	219人
「住民と行政が一体となってまちづくりを考える活動」	210人

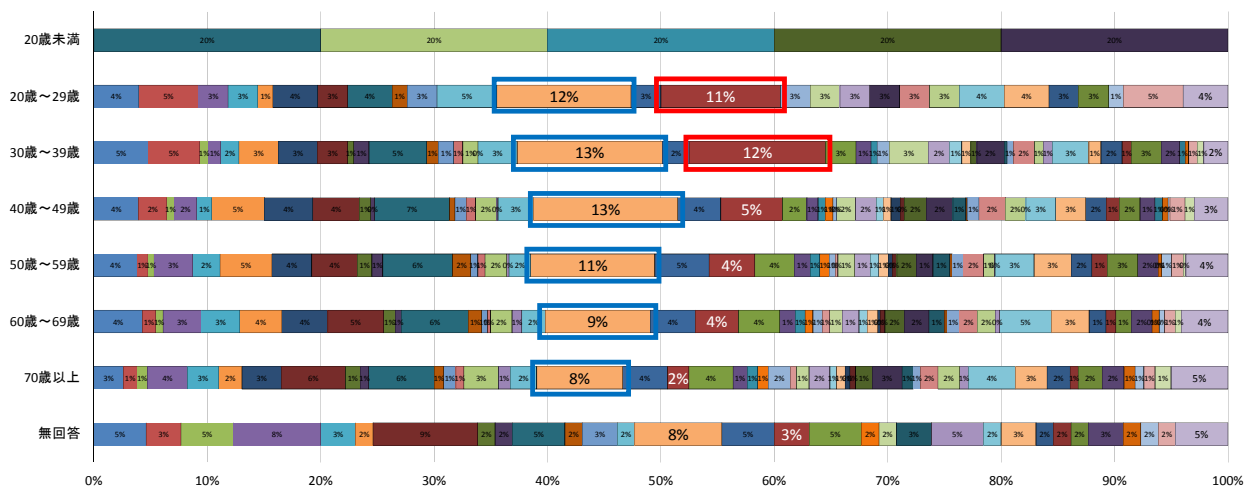
(単位:人)



0 50 100 150 200 250 300 350 400 450 500 550

◆クロス集計【年齢×特に重要と思う取り組み】

年齢別に見ると、概ね「医療機関の充実や緊急医療体制の強化」が最も多いが、「20歳～29歳」、「30歳～39歳」の子育ての現役世代では「安心して子育てできる環境整備(保育サービスの充実など)」も多い傾向にある。



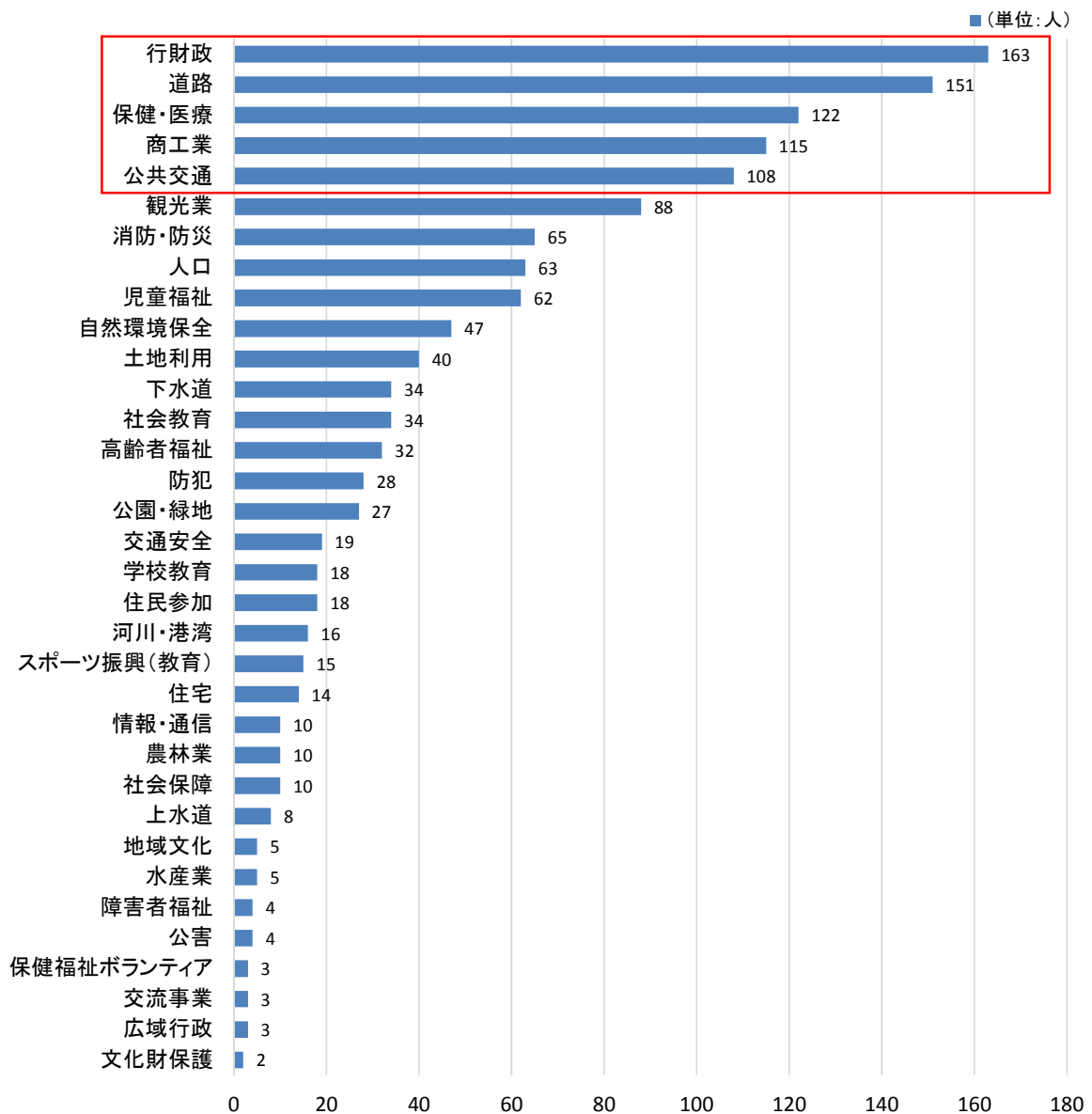
- 住みよい住居環境とするための有効な土地利用(空き地の活用など)
- 公営住宅の整備
- 下水道や合併処理浄化槽の整備
- 身近な生活道路の整備や管理(町道等)
- 町営バスの利用のしやすさ
- 風水害への対策(津波や氾濫など)
- 交通安全施設の充実(道路標識やカーブミラーなど)
- 防災活動・救助活動の体制強化と防災施設整備の充実
- 治安や防災対策に対する取り組み
- 高齢者・障がい者のための福祉サービス
- 国民健康保険や介護保険などの社会保障制度
- 自然的資源の有効利用(森林や海など)
- 大気汚染・騒音・水質汚染などの公害対策
- 安心して学べる学校施設の充実、空き教室などの有効活用
- 生涯学習の推進に向けた機会・場所の提供
- 国内外の異なる文化とのふれあいの機会・場所の提供
- 地域個性を活かした景観や歴史的資源の保存と活用
- 農業の振興
- 水産業の振興
- 町政情報や地域情報の充実
- 安定的な財源の確保や計画的な事務事業の推進などによる健全な財政運営
- 仙台市や近隣市町村と連携した行政運営
- 地域における防災・防犯活動(防災訓練や子どもの見守り活動など)
- 小・中学校などのPTA活動
- 観光案内や通訳などのボランティア活動
- 子ども会、老人会、婦人会活動などの町内会の活動
- 身近な公園・緑地の整備
- 安全・安心な飲み水の安定供給
- 他市町村との行き来をするための道路網の整備
- 松島町の玄関口としての「松島駅・松島海岸駅」の整備
- 公共施設や公共交通機関のバリアフリー化
- 一般住宅の耐震化に向けた支援
- 歩行者や運転者の交通安全に対する意識を高める活動の充実
- 住民による自主防災組織活動への支援
- 医療機関の充実や緊急医療体制の強化
- 安心して子育てできる環境整備(保育サービスの充実など)
- 自然環境に配慮した宅地などの開発指導・誘導
- ごみの分別・減量、リサイクルなどの取り組み
- CO2(二酸化炭素)排出抑制などの地球温暖化対策
- 児童・青少年の健全育成のための施設や教育事業
- スポーツ振興のための施設・サービスの充実
- 地域文化・伝統芸能の継承発展のための支援
- 観光施設の充実や観光情報の発信などの観光振興
- 林業の振興
- 商工業の振興
- ボランティアなどまちづくり活動への行政支援
- 住民が利用しやすい行政サービス
- 地域の環境衛生活動(清掃活動や不法投棄の監視など)
- 高齢者・障がい者の介助、子育て支援などのボランティア活動
- 生涯学習などによる地域でのふれあい活動
- 伝統行事・文化を継承する活動や祭り・イベントなどの活動
- 住民と行政が一体となってまちづくりを考える活動

(8) 自由意見【問9】

アンケートの自由意見について、意見内容を分野別・主要プロジェクトの区分別に整理した結果を以下に示す。

1) 分野別集計結果

現行の総合計画の主要プロジェクト区分別では、「**行財政**」「**道路**」「**保健・医療**」「**商工業**」「**公共交通**」についての意見が多い状況となっている。



2) 主要プロジェクト区分別集計結果

各分野に関して、主要プロジェクト区分別に、自由意見の要旨を整理した結果を以下に示す。

◆基盤整備分野（意見数：392件）

基盤整備分野では、以下の意見が多くなっている。

・公共交通	「駅のバリアフリー化」	47名
・道路	「歩道・自転車道の整備」	32名
・道路	「国道45号の渋滞解消」	28名

◆環境分野（意見数：51件）

環境分野では、以下の意見が多くなっている。

・自然環境保全	「道路などの雑草の適切な管理」	9名
・自然環境保全	「不法投棄の防止強化」	8名
・自然環境保全	「自然環境・自然景観の保全」	6名

◆安全・防災分野（意見数：128件）

安全・防災分野では、以下の意見が多くなっている。

・防犯	「街路灯の整備」	18名
・消防防災	「防災対策の充実」	12名
・消防防災	「防災無線の充実」	10名

◆福祉・保健・医療分野（意見数：233件）

福祉・保健・医療分野では、以下の意見が多くなっている。

・児童福祉	「子育て支援策の推進」	35名
・保健・医療	「医療機関の充実」	34名
・保健・医療	「医療機関の誘致」	34名

◆教育・文化分野（意見数：77件）

教育・文化分野では、以下の意見が多くなっている。

・社会教育	「図書館の整備」	7名
・学校教育	「学校教育の質の向上」	6名
・社会教育	「美術館、博物館等の教育文化施設の整備・充実」	4名

◆産業振興分野（意見数：218件）

産業振興分野では、以下の意見が多くなっている。

・商工業	「商業施設の誘致による利便性の向上」	35名
・商工業	「企業誘致の促進」	20名
・観光業	「観光業以外の発展による町の活性化」	11名

◆行政運営分野（意見数：184件）

行政運営分野では、以下の意見が多くなっている。

・行財政	「町職員の質の向上」	20名
・行財政	「健全な行財政運営」	19名
・行財政	「アンケート結果の公表・有効活用」	14名

◆人口分野（意見数：63件）

人口について、以下の意見が多くなっている。

・人口	「人口減少対策の推進」	25名
・人口	「若者の定住促進」	25名
・人口	「少子化対策の推進」	9名